日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌［アクエドゥクト］ www.acueducto.jp

acueducto

2017
31
30-noviembre



特集

ロルカを思う。

Homenaje a Federico García Lorca

話せる楽しさを実感しながら、
スペイン語を身に付けよう！

スペイン語
ADELANTE
www.adelante.jp

アデランテで学ぶ理由



スペイン語専門の教室



教室の中はスペイン一色！スペイン直輸入の書籍もたくさん販売しております。



講師は全員ネイティブ



スペイン出身の講師だから、留学気分でスペイン語を学べます。





グループレッスンは振替制度あり

欠席しても安心です。事前にお知らせいただければ、他のクラスのレッスンを受講いただけます。





イベントもりだくさん！

生徒さん同士の交流も盛んです。皆さんスペイン・中南米好きなのですぐに仲良くなれますよ！

2017年
11月新規開講
一般グループコース

申込み受付中

初心者対象の新しいクラスなので初めての方でも安心です。

スペイン語入門クラス開講

体験レッスン当日にお申し込みで
入会金無料
(10,800円)

月曜日	20:30～21:20	11/20～2/12
火曜日	10:30～11:20 19:30～20:20	11/21～2/13
水曜日	19:30～20:20	11/22～2/14
木曜日	18:30～19:20 20:30～21:20	11/23～2/8
土曜日	10:30～11:20 13:30～14:20	11/25～2/10

●まずは上記の各曜日の中から、ご都合の良い時間帯をお知らせ下さい。
日程が合わない方や、その他の曜日・時間をご希望の方は、お気軽にご相談下さい。
●学習経験者の方は、まずは体験レッスンをご予約下さい。
体験後、レベル別のレッスンの時間割をご案内致します。
●年末年始(12月31日～1月3日)は休校します。

携帯・スマホから
こちらのQRコード
からWEBへ

1レッスン：50分
全12回
(週1回 時間曜日固定)

[受講料]
44,160円(税込・分納可)

[教材費] 1,944円

各クラス定員4名
定員になり次第
締め切ります。

11月・12月の特別クラス



入会不要、一般の方も参加できます。

映画で学ぶスペインの世界遺産 文化

11月15日(水) 19:30～20:20
担当：マイアレン
対象レベル：A2以上
料金：受講生3000円 / 一般3500円

本を読むクラス 文学

11月18日(土) 11:30～12:20
担当：マイアレン
対象レベル：B1-B2
料金：受講生3000円 / 一般3500円

ミケル先生の文法講座 文法
SERとESTARの使い分け

11月21日(火) 14:30-16:20
12月2日(土) 13:30-15:20
担当：ミケル
対象レベル：A2-B2
料金：受講生3500円 / 一般4000円

文化クラス スペインのレコンキスタ 文化

11月18日(土) 13:30～15:20
担当：マイアレン
対象レベル：全レベル
料金：受講生3000円 / 一般3500円

お問合せ
info@adelante.jp
TEL:06-6346-5554
大阪市北区梅田2-5-8千代田ビル西別館2F
JR大阪駅「桜橋口」徒歩5分

ミケル先生の文法講座 文法
接続詞の用法 (全3回)

第1回11月28日(火) 19:30～20:20
第2回12月5日(火) 19:30～20:20
第3回12月12日(火) 19:30～20:20
担当：ミケル
対象レベル：B1+以上
料金(一括)：受講生10500円 / 一般12000円

ネイティブの発音をマスター 会話

11月29日(水) 19:30～20:20
担当：マイアレン
対象レベル：A2-B2
料金：受講生3000円 / 一般3500円

音楽 de スペイン語 文化

12月9日(土) 11:30～12:20
担当：マイアレン
対象レベル：A2-B2
料金：受講生3000円 / 一般3500円

スペインのクリスマス 文化

12月9日(土) 13:30～15:20
担当：ミケル
対象レベル：全レベル
料金：受講生4500円 / 一般5000円

料理で学ぶスペイン語 文化

12月16日(土) 13:30～15:20
12月23日(土・祝) 13:30～15:20
担当：ミケル
対象レベル：A2以上
料金(各回)：受講生4500円 / 一般5000円

スペイン語Café

寄り道して、ネイティブと話して帰ろう。

受講生 ¥1000
一般 ¥1200

大阪・梅田の教室 ADELANTE で開催
第1・第3 土曜日 17:30～18:20
第2・第4 金曜日 19:30～20:20

※担当講師と内容は変更する可能性があります。

Sumario

2 特集　Homenaje a Federico García Lorca
ロルカを思う。

14 音楽の時間
ガルシア・ロルカと音楽 その6　文　下山静香

16 パンとチーズとワインがあれば - スペイン料理あれこれ話 vol.9
Pollo en pepitoria　文・写真　渡辺万里

22 第23回 アニージャ・ラ・ヒターナ・デ・ロンダ
バイラオールSIROCO ロンダのコンクール優勝
文　小倉泉弥　写真　Antonio Perez

24 スペイン留学.jp
「スペイン語留学」しよ！ アクティビティ特集

30 ADELANTEのスペイン語レッスン
初級　スペイン語で話そう　Lección 13
天気の表現

32 実践　Español práctico vol. 7
お菓子のパッケージ

34 中級　スペイン語講座 Lección 31
目的の接続詞para que等の表現について　文　仲井邦佳

36 上級　ビジネススペイン語 vol. 12
労働・人事分野の表現　文　伊藤嘉太郎

38 イラスト解説　スペイン語 慣用表現 vol. 2
4対8個 学校の優等生と勉強が苦手な子

40 エコ・エスパーニャ Vol. 15
市民団体「Ca La Mare」　文・写真　篠田有史

42 ボルヘスと司馬遼太郎　文　木村榮一

44 日西商業会議所
日本のインポーターとジャーナリスト一団、バルデペーニャスを視察

46 セルバンテス文化センター東京
新館長から、スペイン語を学ぶ皆さんへ　文　ビクトル・ウガルテ
水彩画だより スペインの風景に魅せられて vol. 2　文・絵　牧瀬貢

47 スペインのお勧めバール・レストラン vol. 17　文・写真　中村美和
西宮市国際交流協会 スペイン語おしゃべりの会 活動報告　文・写真　谷善三


21 歳のロルカ（グラナダ）

acueducto 31

スペイン無料情報誌
noviembre 2017 vol.31
printed in Japan / FREE PAPER
表紙写真：18 歳のロルカ（1919 年 / グラナダ）
写真提供：La Fundación Federico García Lorca / MUSEO-CASA NATAL FEDERICO GARCÍA LORCA Fuente Vaqueros -GRANADA-

発行元：
有限会社 ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2 F
Tel：06-6346-5554　Fax：06-6110-5122
info@acueducto.jp
www.acueducto.jp

ADELANTE Co., Ltd
2FL. Chiyoda Bldg. West Annex 2-5-8 Umeda Kita-ku Osaka
530-0001 Japón

www.facebook.com/acueducto.japon
@acueducto_japon

本誌の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、
禁じられています。本誌の内容および広告に関しては、
発行元の責任の限りではありません。

Director：編集長
Shoji Bando / 坂東省次

Editor：発行
Alejandro Contreras / コントレラス・アレハンドロ

Coordinación：編集
Nagisa Miyata / 宮田渚

Diseño：デザイン
Koichi Hayashi / 林コイチ

Colaboradores en este número：今号の執筆・校正協力
Kaname Ikemoto / 池本かなめ
Yoshitaro Ito / 伊藤嘉太郎
Víctor Ugarte / ウガルテ・ビクトル
Senya Ogura / 小倉泉弥
Yo Kawanari / 川成洋
Eiichi Kimura / 木村榮一
Elena Contreras / コントレラス・エレナ
Yuji Shinoda / 篠田有史
Shizuka Shimoyama / 下山静香
Zenzo Tani / 谷善三
Francisco Torregrosa / トレグロサ・フランシスコ
Kuniyoshi Nakai / 仲井邦佳
Miwa Nakamura / 中村美和
Urara Hirai / 平井うらら
Mitsugu Makise / 牧瀬貢
Mari Watanabe / 渡辺万里

Colaboradores:

ー読者の声ー Estimados Señores

acueducto 編集部では、皆さまからのメール・お便りを募集しています。スペイン情報誌 acueducto へのご意見・ご感想のほか、スペインにまつわるエピソードもお寄せ下さい。

1. お名前（ペンネーム）※匿名希望の場合は、その旨を明記下さい
2. お住まい
3. ご連絡先
4. メッセージ

写真入りのお便り・メールも大歓迎です

宛先：
有限会社 ADELANTE
〒530-0001　大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2F
info@acueducto.jp

・お寄せいただいたメッセージは、これからの誌面制作の参考にさせていただきます。また、acueducto 誌面や弊社ホームページ、宣伝物に掲載させていただく場合がありますので、掲載を希望されない場合は、「非公開希望」と明記下さい。なお掲載にあたっては、文章の一部削除・変更させていただく場合がありますのでご了承下さい。
・いただいた個人情報は上記以外の目的では使用致しません。
・お便り・メールへの個別のお返事は差し上げておりません。
・お送りいただきましたお便り・写真は返却致しません。あらかじめご了承下さい。

特集

ロルカを思う。

Homenaje a Federico García Lorca

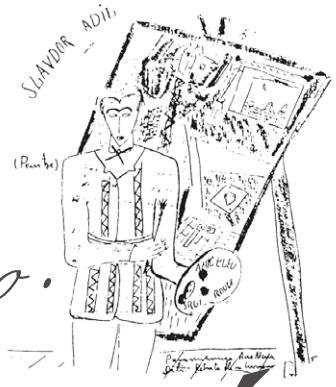


グラナダ、アセラ・デル・カジノ通りの自宅にて。
ピアノに腰掛ける若いロルカ（1910年代）

写真提供：La Fundación Federico García Lorca（ロルカ財団）/
MUSEO-CASA NATAL FEDERICO GARCÍA LORCA Fuente Vaqueros –GRANADA–（ロルカ生家記念館）

ロルカ、あるいは夢見る力。

平井 うらら=文
TEXTO=URARA HIRAI



ロルカによる
「SLAVDOR ADIL
(ダリのアナグラム)」
(1927年)

Federico.
El don de soñar



左からサルバドール・ダリ、モレノ・ビジャ、ルイス・ブニュエル、ガルシア・ロルカ、ルビオ・サクリスタン
(1924-25年頃 / マドリード学生館)

ロルカの初心

フェデリコ・ガルシア・ロルカ(1898年6月5日-1936年8月19日)は多才な芸術家で、詩を作り劇作をし、絵も描きピアノも演奏し即興で歌も作った、とよくいわれます。しかし彼自身は自分のことを、あれにもこれにも手を出すマルチな才能を持った芸術家だとは思っていなかったでしょう。自分が生きたいように生きていただけなのです。自分の心の中に湧いてきた言葉を口に出し、ピアノがあれば思いつくままに弾いてみて、劇を作ってはみんなを誘って演じてみる、そしてその喜びを居合わせた人たちと共有しようとしただけでしょう。

彼はほんの小さなころから、音楽や詩の朗読にとり囲まれて育ち、夜寝る時には毎晩、乳母の物語を聞いて過ごしたのでした。まだ4、5歳のころから、教会の説教を聞いてきた昼下がりに、自分で説教を膨らませてお話を作っては、同じ年頃の子どもたちと演劇ごっこに興じていたといいます。これがロルカの初心であり、ロルカは終生、この初心から離れなかったのです。私は、ロルカがさまざまな芸術活動を通して目指していた、ただひとつのものがあると考え、それを、「祝祭」という言葉で捉えています。彼の芸術論である「ドゥエンデの働きと、その理論」は、祝祭論として捉えられるものであり、そこで明らかにされた芸術家とは、祝祭を実現するシャーマン的役割を担う存在、とされています。

ですから、彼の詩はほとんど歌といってもいいもので、言葉がもたらすイメージだけでなく、その調べはそれを聞く人に心地よく、朗誦するにふさわしいものです。彼の詩をスペイン語で読み上げていただければ、そのことはよくわかるでしょう。ロルカは、自分の中で詩が生まれると、やもたてもたまらなくなって、たとえ詩の制作の途中であっても、周りにいる友人や家族にすぐ朗読したものでした。マドリードの学生館で暮らすようになってもそんなふうだったので、彼の詩はたちまち有名になって、出版もされていないのに口づてに友人のあいだに広まり、愛唱されたといいます。

彼の詩集で最初に有名になったのは、『ロマンセーロ・ヒターノ(ジプシー歌集)』です。これは、スペインに定住したジプシーであるヒターノの神話的物語世界を、スペインの伝統的詩形であるロマンセの形をとって詠ったものです。当時社会的に差別されていたヒターノの魂の中にスペインの魂を見いだしたこの作品は、社会に対するロルカの姿勢を鮮明にするものであり、世間に物議をかもす作品でもありました。

ロルカ、あるいは夢見る力。

学生劇団「バラッカ」の指揮を執るロルカ（1932年撮影）



展開するロルカ

ロルカは1929年にはアメリカに長期滞在して、偶然にも世界恐慌の現場に遭遇することになりました。彼は、この経験を通して欧米型の文明の未来に失望し、アメリカの最も底辺にいる黒人の目から当時世界の最先端にあったアメリカを見返そうとします。これが、『ニューヨークの詩人』という詩集に結実しました。欧米型文明との訣別であるこの詩集と「ドゥエンデ論」は、それ以降のロルカの位置を決定づけるものであり、このあとで自分の講演が企画されると、そのたびに何度もこの二つに触れることになります。

アメリカから途中キューバに立ち寄ったりしてロルカがスペインへ帰ってきたのは1930年ですが、その翌年には世界恐慌の影響で苦しむ人々に無策だったために王政が破綻し、第二共和制が始まります。共和政府は、当時世界でもっとも民主的とみなされていたドイツのワイマール憲法に範をとった憲法を施行し、大胆な改革をつぎつぎに打ち出していきました。ロルカの恩師や知人がその政府に参加した関係から、彼自身も積極的に政府に協力します。それからの5年間のロルカは、疾風怒濤の毎日となりました。

まず、『血の婚礼』をはじめとする三大悲劇の制作（そのうち『ベルナルダ・アルバの家』は殺された年の6月に完成したばかりで、ロルカが公演に立ち会う機会はありませんでした）とその公演があります。とくに『血の婚礼』は大衆的に大変な評判を呼び、中南米でも大好評でした。彼は中南米で劇の公演があるたびに、呼ばれて記念講演の旅に出かけています。

他方で、文科大臣になった恩師の提案を受けて、学生を集めて「バラッカ」という劇団を作り、スペインの田舎を公演して回りました。演目は自分の作品ではなく、文化とは程遠い田舎の暮らしを送る農民にも受け入れられるように、カルデロンなどのおもにスペインの伝統演劇をとりあげました。演目の選定において、単なる啓蒙的お説教的な政治劇を選ばなかったことに、注目してください。ロルカが求めたのは、田舎のありふれたおじさんおばさんとともに過ごす祝祭的時間だったのです。その経験が必ず、その人たちの力になるという確信が彼にはあったのです。また、劇の展開に一喜一憂する観客の反応から、ロルカもおおいに学び、それがそれ以降の彼の作劇や演出に変化をもたらしたと思われます。そのせいか、それまでの前衛的作風が影を潜め、登場する庶民（『血の婚礼』の近所のおばさんや娘たち、『イェルマ』の女妖術師、『アルバの家』の女中など）の描き方がきめ細かく深くなっています。「バラッカ」の公演のためにロルカは、おんぼろトラックに乗り込み、大道具や衣装づくりに参加し、演目の決定や演出をし、自らも出演するなど、八面六臂の活躍でした。それは、道もろくに整備されていない不案内なところを、右翼からの妨害をはねのけながらの旅でした。この活動は、共和政府を左派が失ってからも、断続的に続けられました。



トラックで移動する「バラッカ」の劇団員たち。ロルカは右から2人目



カルデロンの戯曲『人生は夢』でロルカは「影」役を演じた



ロルカを思う。

劇団「バラッカ」の服を着てピアノの前に座るロルカ（1935年 / グラナダ）



内戦を内面化するロルカ

1931年からの5年間はスペイン自体も疾風怒涛の時代となりました。共和派と、王党派や教会などの守旧勢力とのせめぎあいが続き、次第に深刻なものとなっていったからです。共和派といっても、平和的漸進的改革を目指す人たちや、アナーキスト、共産主義者、現在係争中の農民・労働者たちなど、多様な人たちがいました。守旧派においても、昔ながらの権威主義者から、単に既得権益を守りたい人たち、新しい思想運動としてのファシズムの信奉者たちなどがいました。33年には右翼が政権を執り、それまでの民主的改革を反故にして左翼への過酷な大弾圧が吹き荒れます。その反撃として、36年に人民戦線政府ができ、これに対する軍部の反乱をきっかけとして、内戦が始まります。そしてロルカは、この内戦のとば口で殺されてしまうことになります。

内戦のとば口で殺されたといっても、ロルカは内戦とは無縁ではありませんでした。というのも、31年からの嵐の時代に、すでに内戦的状況が内包されていたからです。ロルカは、内戦を必然化する危機をスペインがはらみつつあることをひしひしと感じていました。その本質をつかみ取って舞台化したものが、三つの悲劇です。もともとスペインの演劇には、三つの悲劇を一体のものとして作り、作品はそれぞれ独立しながら、全体が一つの世界を形作るという伝統がありました。興行的にも、作品を別々に公演したり、一挙に通して公演したりしたのです。ロルカもその伝統に従って作劇していました。そして、社会が中心を失って漂流し、共同体（家族）が外から突き崩される姿を『血の婚礼』において描き、その裏返したものとして、共同体が内から突き崩される姿を『イェルマ』において描いたのです。『ベルナルダ・アルバの家』は、三部作の三作目ではなく、ジャーナリスティックな要請のもとに現実のパロディとして書かれたもので、別格です。予定されていた三作目は『ソドムの破壊』というタイトルのもと大部分は出来上がっていたのですが、最初の一枚を残して、原稿はすべて失われてしまいました。それでも、この三作目の原イメージは、『タマリット詩集』のいくつかの詩篇において提出されています。そのイメージは繰り返し出てくるので、詩集を用心深く読んでいただければおわかりいただけると思いますが、簡単にまとめてしまうと、「破滅と絶望、犠牲になる小さきものたち、そしてそこからの再生」ということができます。

『タマリット詩集』は、ロルカの嵐の5年間のあいだに、忙しい合間を縫って少しずつ書き溜められたものです。それだけに、この5年間ロルカが何と向き合い、何と闘い、そのことをどうとらえてきたかが、異様な緊迫感をもって描き出されています。といってもそれは、理路整然とした論理的な言葉で表現されてはいません。彼が長年つちかってきた神話的思考によって、神話的な物語として提示されています。



恋人ラファエル・ロドリゲス・ラプンとマドリード街道を歩くロルカ（1930年代）

ロルカ、あるいは夢見る力。



1927年、バルセロナのウルキナオナ広場にて撮影された絵葉書写真（ダリへ送られた）。"Urquinaona!" "Hola hijo! Aquí estoy!"と書き添えられている。ロルカの身体に重ねられた絵は、詩人が写真の中で聖セバスティアンの肖像に変身することを暗示している







ロルカによるデッサン



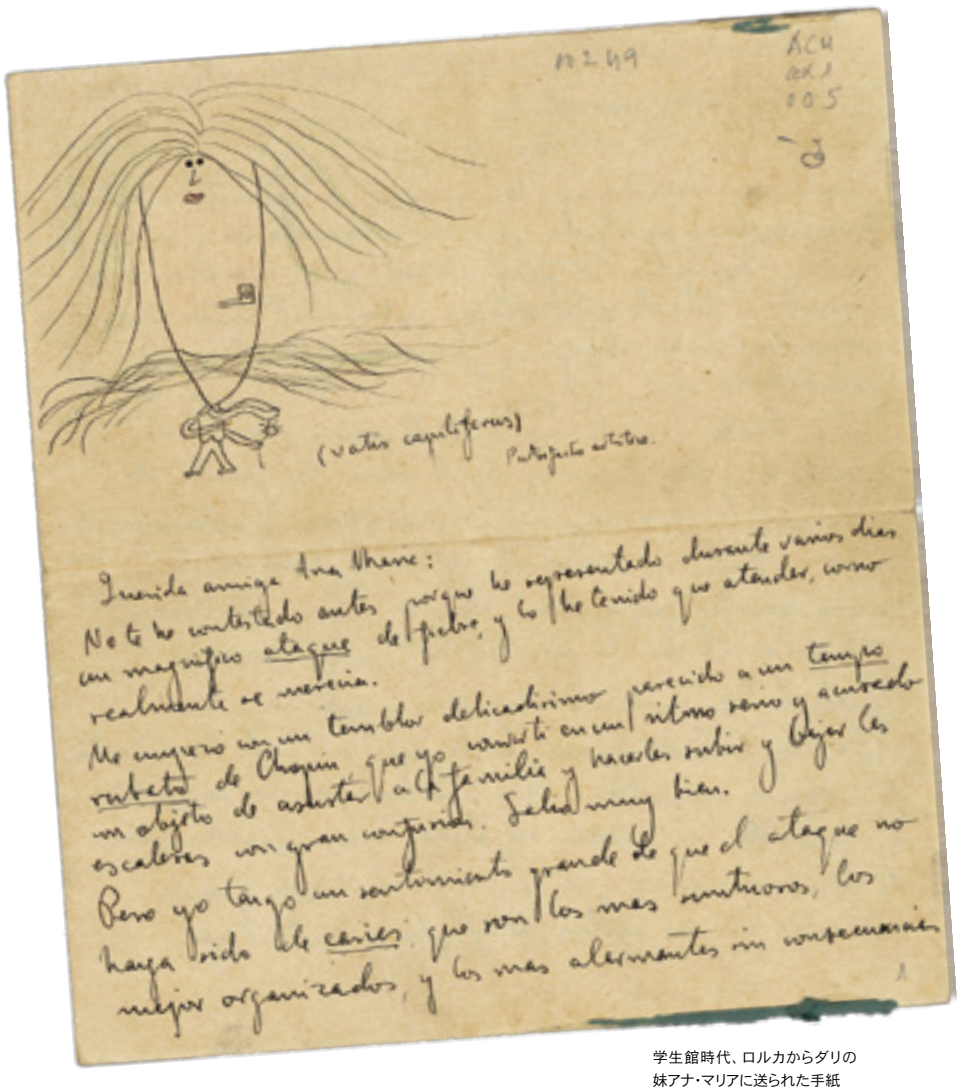




ロルカ、あるいは夢見る力

ロルカは、ちょうど20代に入ってから、フランスを中心に勃興したシュルレアリスムに夢中になりました。ロルカだけではなく、ロルカの世代は誰もがこの洗礼を浴びて、シュルレアリストでなければ芸術家ではないというくらい、圧倒的なものでした。それは、合理主義がもたらした破局としての第一次大戦の反省や反発から生まれたものですが、イメージや直感によって本質へ一挙に到達しようとするものであり、心の中の無意識やものごとの深層をさまざまな方法によって明るみに出そうとする芸術運動でした。ロルカは、この運動の影響を受けながら、スペインにも17世紀にすでにこのような試みをしていた先駆者を見いだします。それが、当時は文学史の片隅に追いやられて埋もれていたルイス・デ・ゴンゴラです。ロルカの独特な比喩、表現方法、神話的思考は、アンダルシアという地方の庶民がもつ感性や表現方法につちかわれたものであると同時に、シュルレアリスムに刺激を受け、異能の先人ゴンゴラから学んだものでもあったのです。ですから「神話的思考」とは、現実の世界を捉える方法として、説明的に物事を組み立てるやり方を排して、イメージや直感によって捉えた像をひとつの神話として組み立てていく認識方法といえます。西洋合理主義が世界を席巻する前は、実はもともとこのような方法で人々は世界を捉えてきたのです。この神話的思考を、私は「夢見る力」と言い換えて、ロルカの方法だと考えています。この力を発揮して、内戦的状況を捉えたものが、『タマリット詩集』なのです。

『タマリット詩集』の原題は、Diván del Tamarit です。divánは、もともと窓際に置くアラブ風の寝椅子を意味します。そしてこの言葉が「詩集」の意味で使われるときは、とくに「アラブ詩の詩集」を意味します。このような体裁を採用したのには、ロルカの目論見がありました。



学生館時代、ロルカからダリの妹アナ・マリアに送られた手紙

『タマリット詩集』の地平

かつてグラナダをアラブが支配していた時代に書かれた、すぐれたアラブ詩をエミリオ・ガルシア・ゴメスという若きアラブ文学者が現代スペイン語に翻訳して出版し、当時たいへん評判になりました。エミリオの友人でもあったロルカは、彼の訳詩の仕事におおいに刺激を受けて、この友人の訳詩の形を借りながら、自分の詩集を出そうとしたのです。アラブの詩形を通して、いまのスペインの魂を描くことができることを証明してみせようとしたのです。ヒターノの物語をスペイン伝統の詩形であるロマンセを通して描くことで、スペインの魂を描こうとしたのと共通する大胆な方法です。それはスペインの歴史を、アラブの暗黒を打ち砕いて世界帝国を築いたキリスト教の栄光の歴史と捉えるか、アラブから現代スペインまでを連続したひとつのものとし、多種多様な文化や民族が共生してきた歴史と捉えるか、という当時の歴史観の対立に対する、ロルカの明確な答えでもあったのです。

「タマリット」は、グラナダ近郊の、叔父の農園の名前で、時間が取れる時はよくここを訪れて、これらの詩を書いたのです。そこはまた、ロルカの魂の故郷でもありました。彼は、「人知れぬ死のガセーラ」で、「自己再生のために、りんごの眠りを眠らせてくれ」と書いていますが、その眠りを眠る場所が、タマリットだったのです。

闘牛のとき牛は、闘いのさなかに必ず立ち返る、自分が縄張りと思い定めた場所があって、それをケレンシアといいます。ケレンシアには、何か印があるわけではなく、場所に一定の法則があるわけでもなく、ただ牛本人にしかわからないそうです。ロルカにもそのケレンシアがあったとするなら、それはタマリットだったのです。ロルカが最後に、危険を顧みず友達の忠告も聞かず、死地となるグラナダにあえて赴いたのも、そこが彼のケレンシアであったからだと思えてなりません。





左は現在のタマリット農園と管理人、
下はタマリットの森の中を通る、農園に向かう道（撮影：平井うらら）





グラナダの丘に美しく佇むアルハンブラ宮殿。イベリア半島におけるイスラム王朝の最後の牙城であった



外で見る夢のカシーダ

ジャスミンの花と　首を刺し貫かれた雄牛。
どこまでも続く舗道。地図。部屋。竪琴。夜明け。
女の子は　ジャスミンの雄牛になってみせるが
雄牛は　うなり声をあげる血まみれの黄昏。

もし空が　ほんの小さな男の子だったら、
暗い夜の半分は　ジャスミンのものだろう、
そしてジャスミンは　空色の闘牛場から闘牛士を閉め出し、
柱の根元では　雄牛の心臓を憩わせるだろう。

しかし空は象だ、
だから　ジャスミンは生気をなくした血液
だから女の子は　夜の小枝
それは　暗くてだだっ広い舗道にうち捨てられている。

ジャスミンと　雄牛のはざま
あるいは象牙の鉤との　または眠る人々との。
ジャスミンの中にあるのは　象と暗雲
そして闘牛の中には　骨になった女の子。

Casida del sueño al aire libre

Flor de jazmín y toro degollado.
Pavimento infinito. Mapa. Sala. Arpa. Alba.
La niña finge un toro de jazmines
y el toro es un sangriento crepúsculo que brama.

Si el cielo fuera un niño pequeñito,
los jazmines tendrían mitad de noche oscura,
y el toro circo azul sin lidiadores,
y un corazón al pie de una columna.

Pero el cielo es un elefante,
y el jazmín es un agua sin sangre
y la niña es un ramo nocturno
por el inmenso pavimento oscuro.

Entre el jazmín y el toro
o garfios de marfil o gente dormida.
En el jazmín un elefante y nubes
y en el toro el esqueleto de la niña.

平井うらら 訳『対訳 タマリット詩集』影書房より

ロルカ――夢と「黒い鳩」

この詩集の中の一つ、「外で見る夢のカシーダ」を見てみましょう。

闘牛の牛は、自ら望んで闘牛場で闘うわけではありません。闘いを強いられて、おのれの誇りをかけて闘いに臨むのです。その牛はいま、首にやりを刺されて瀕死の状態にあります。女の子は、ジャスミンに象徴される平和な日常を望みます。しかし願いは、かないません。空が、無垢な魂を持つ少年のものでなく、何物も無慈悲に踏みつぶす象のものになっているからです。少女は、犠牲になって打ち捨てられるしかありません。平和な日常（ジャスミン）は、象の恐怖・絶望の未来をはらんでいます。闘牛の心は、犠牲になった少女の記憶をかかえて、象と対峙するのです。ここで印象的なのは、「ジャスミンと雄牛のはざま」、「ジャスミンと象牙の鉤（テロや拷問を象徴します）のはざま」、「ジャスミンと眠る人々（迫る危機に気づかず安眠をむさぼる人々）とのはざま」をあなたはどう考えるのですか、というきびしい問いかけです。

もう一つ、紹介します。「黒い鳩のカシーダ」です。

哀切としか言いようがない、詩です。

「太陽」と「月」とは、世界を支配する権威あるものの象徴です。彼らは、通常ありえない「黒い鳩」になったり、「白い鷲」になったり、「裸の鳩」になったりして、少年の前に現れます。しかし少年は結局、彼らにあしらわれていい加減な答えしかもらえません。少年が彼らから何の返事ももらえないことより、いっそう過酷に思えます。それは、裏切りでもあるからです。少年はいまも、魂が眠る場所を求めて探し続けています。恋をするはずだった少女さえ、裸で、誰とも特定できないぬけがらになってしまっていたのです。

このようなロルカの詩が、80年前に作られた、文学史に残る記念碑としてではなく、なまなましいリアルとしてしか読めないのですから、ロルカはいまも私たちの傍らにいるのです。

黒い鳩のカシーダ

月桂樹の枝のうえに
二羽の　闇のように黒い鳩が見えた。
一羽は太陽、
もう一羽は月だった。
「お隣さんたち」、僕は声をかけた、
「僕は　どこに葬られるの？」
太陽は言った、「私のしっぽに」。
月は言った、「私ののどに」。
そのあと僕は　歩いていった
腰のところまで　泥に埋まりながら
そして二羽の　雪のように白い鷲と
裸の少女に出会った。
一羽は　もう一羽と同じで、
少女は　ぬけがらだった。
「鷲さんたち」、僕は声をかけた、
「僕は　どこに葬られるの？」
太陽は言った、「私のしっぽに」。
月は言った、「私ののどに」。
月桂樹の枝のほうに
二羽の　裸の鳩がみえた。
一羽は　もう一羽と同じで
二羽の鳩とも　ぬけがらだった。

Casida del las palomas oscuras

Por las ramas del laurel
vi dos palomas oscuras.
La una era el sol,
la otra la luna.
«Vecinitas», les dije,
«¿dónde está mi sepultura?»
«En mi cola», dijo el sol.
«En mi garganta», dijo la luna.
Y yo que estaba caminando
con la tierra por la cintura
vi dos águilas de nieve
y una muchacha desnuda.
La una era la otra
y la muchacha era ninguna.
«Aguilitas», les dije,
«¿dónde está mi sepultura?»
«En mi cola», dijo el sol.
«En mi garganta», dijo la luna.
Por las ramas del laurel
vi dos palomas desnudas.
La una era la otra
y las dos eran ninguna.

平井うらら 訳『対訳 タマリット詩集』影書房より

ロルカ、あるいは夢見る力。



ジャスミンの花が白壁に沿って咲いている、グラナダの住宅街（撮影：平井うらら）



平井 うらら / Urara Hirai　京都大学講師　詩人
1952年香川県高松市生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。京都外国語大学大学院修士課程修了。グラナダ大学博士課程修了。文学博士（グラナダ大学）。著書に『対訳タマリット詩集』（単著）、『平井うらら詩集』（単著）、『マヌエルのクリスマス』（単著）、『ガルシア・ロルカの世界』（共著）、『スペインの女性群像』（共著）、『スペイン文化辞典』（共著）など。



Oda a Federico García Lorca

フェデリコ・ガルシア・ロルカ讃歌

川成 洋=文
TEXTO=YO KAWANARI

スペイン内戦勃発（7月17日）のほぼ1ヵ月後の8月19日払暁、詩人・劇作家・音楽家・画家のフェデリコ・ガルシア・ロルカは、彼の故郷グラナダ郊外のビスナールにある、「大いなる泉」と呼ばれる泉近くのオリーブ畑の中で、フランコ叛乱軍側の暗殺集団（具体的には、5月の再選挙で落選した元国会議員ラモン・ルイス・アロンソの率いる「黒色隊」）によって無残にも銃殺されたのだった。前途洋々の38歳だった。

ロルカがファシストに殺されたらしいという噂が共和国側の新聞に載ったのは、それから3週間後のことであった。フランコ叛乱軍に完全に武力制圧されたグラナダから、命からがら脱出してきた共和派の証言により、やがてロルカの暗殺については単なる噂などではなくて、確かな事実であると判明し、やがてスペイン語圏のみならずに、ヨーロッパ諸国の新聞にもこの驚愕すべき事件が報道された。1936年10月13日付のグラナダ叛乱軍当局への電報にはこう書かれている。「ロンドン・ペンクラブ会長H・G・ウェルズは、著名なる同僚フェデリコ・ガルシア・ロルカ氏の消息を是非知りたく、ご返事をお待ち申し上げる次第です」。それに対する返答は「グラナダ県知事よりH・G・ウェルズ氏へ。フェデリコ・ガルシア・ロルカ氏の消息については不明であります」であった。

1940年にグラナダ市当局が作成した正式の死亡証明書には、ロルカは「1936年8月、戦傷により死亡」と記されている。まるで流れ弾による不運な死であったかのように世間に公表されたのである。いまだロルカの遺体は発見されていない。

昨年、ロルカが虐殺されて80周年。スペインで、あるいはグラナダで、ロルカにまつわるなんらかの大々的な催しが行われたであろうか。寡聞にして、よくわからないが、そのようなことは行われなかったであろう。ともあれ、ロルカ虐殺の事実を隠蔽してきた陣営が、相変わらずスペイン観光の目玉として活用しているあさましい不見識さに驚かされるが、これこそロルカに対する冒涜であろう。

ロルカの最大の不幸はフランコ陣営に虐殺されたという事実だけではない。スペインを「中世の異端審問の国」に引き戻した、内戦の勝利者フランコによる完璧な思想統制体制（軍隊・公安警察・カトリック教会）によって、ロルカの作品までも、スペイン国内では完全に「封印された」のである。従って、これによってもロルカ本人は、まさにグラナダ叛乱軍当局が言明したように「1936年8月」以来名実ともに、地上に存在していなかったことになる。

ロルカ虐殺の直後から、彼の諸作品は密かにフランスに持ち出され、そこからソ連に送られたといわれている。我が国で最初に翻訳されたロルカ文学は、ロシア語版からだと聞いたことがある。私の師匠で、長い間セビーリャのグアダルキビル川のほとりで毎日川を眺めつつ、中世ジェノヴァ語とコロンブスを研究し、セビーリャ大学日本語教授でもあった、今は亡き永川礼二先生（実は、先生は、日本では著名なシェイクスピア学者であり、外国語に翻訳不可能だといわれたアイルランド・モダニズム文学の旗手、ジェイムズ・ジョイスの『ユリシーズ』を、1960年代に、丸谷才一・高松雄一両氏らと3人で翻訳したのだった）から、先生が陸軍士官学校在学中に、来るべき対ソ戦に備えてロシア語の勉強をしていて、敗戦直後に、ロシア語版のロルカ詩集を翻訳した、それは黒い表紙だった、と伺ったことがある。このことに関して、現在までの私には確かめようもないが、いつか真相がわかるだろう。もしこれが事実だとすれば、ロルカの再生は、日本から始まったといえるだろう。私は、ロルカ文学ファンのひとりとして、密かにこれを期待しているのであるが……。

ロルカが、若い時に上梓した『歌集』（1921年～24年）に「別れ」という短い詩が収録されている。

ロルカがこの「別れ」を書いたのは、なんと20代の前半であった。これからわずか十数年しか生きられなかったロルカにとって、当時のスペイン社会はあまりにも残酷過ぎたのだった。いや、もしかして、現在のスペインにおいても同様に、ロルカの生きる場がないように思うのは、私ひとりではあるまい。



ロルカを思う。



川成 洋 / Yo Kawanari
1942年札幌で生まれる。北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士課程修了。社会学博士（一橋大学）。法政大学名誉教授。スペイン現代史学会会長、武道家（合気道6段、杖道3段、居合道4段）。書評家。主要著書：『青春のスペイン戦争』（中公新書）、『スペイン一未完の現代史』（彩流社）、『スペイン一歴史の旅』（人間社）、『ジャック白井と国際旅団ースペイン内戦を戦った日本人』（中公文庫）他。



別れ

わたしが死んだら、
露台はあけたままにしておいて。
子どもがオレンジの実をたべる。
（露台から、わたしはそれを見るのです）。
刈り入れ人が麦を刈る。
（露台から、わたしはそれの音を聞くのです）。
わたしが死んだら、
露台はあけたままにしておいて!

Si muero,
dejad el balcón abierto.
El niño come naranjas.
(Desde mi balcón lo veo).
El segador siega el trigo.
(Desde mi balcón lo siento).
¡Si muero,
dejad el balcón abierto!

小海永二訳『ロルカ詩集』世界現代史文庫より

La Despedida

1936年のロルカ

フェデリコ・ガルシア・ロルカ 年表

1898—1936

［年表出典：川成洋，本田誠二，坂東省次編『ガルシア・ロルカの世界―ガルシア・ロルカ生誕100年記念』，行路社，1998年，pp. 275-283.］

1898 誕生
6月5日、ロルカ、グラナダ近郊のフエンテ・バケーロスに生まれる。父は農業主フェデリコ・ガルシア・ロドリゲス、母は元教師ビセンタ・ロルカ・ロメロ。ロルカはその長男。
幼少年時から、アンダルシアの民謡や昔話を聞いて育ち、音楽と人形芝居に興味を示す。

1909 11歳
9月、家族とともにグラナダ市に移る。叔母のイザベルにギターを、ヴェルディの弟子アントニオ・セグーラにピアノと作曲を習い始める。

1915 17歳
グラナダ大学法学部および文学部に入学。「グラナダ芸術センター」の会員になる。
グラナダ市の喫茶店「アラメーダ」に集まる「片隅」グループの一員として、文学者や芸術家への道を目ざす若者たちと交友、ロルカはその中では音楽家としておっていた。
最初の作曲（「アルハンブラのセレナータ」他）を試みる。

1917 19歳
2月、最初の文学的著述「象徴的幻想」を『グラナダ芸術センター会報』に発表。
この年、マヌエル・デ・ファリャと知り合う。

1918 20歳
3、4月頃、最初の著書『印象と風景』をグラナダで自費出版。反響まったくなし。
春、最初のマドリード滞在。ラ・アルヘンティニータと知り合う。
この年から1921年にかけて最初の詩集『詩の本』の内容をなす多くの詩を書く。

1919 21歳
春、マドリードに来て「学生館」に住む。

1920 22歳
3月22日、最初の戯曲「蝶の呪い」がマドリードのエスラーバ劇場で初演される。観客の非難、賛否両派に分かれて乱闘騒ぎになる。

1921 23歳
6月15日、最初の詩集『詩の本』を出版、マドリードの文壇に登場する。
この年、後に『カンテ・ホンドの詩』の中に収められることになる詩の大部分と、『歌集』に収められることになる詩の何篇かを書く。

1922 24歳
2月19日、「グラナダ芸術センター」において、「カンテ・ホンド――アンダルシアの原始的な歌」と題して講演。
6月13日、14日、グラナダでファリャおよびロルカら芸術家・知識人のグループによって組織された〈カンテ・ホンド祭り〉が開かれ、アンダルシアの各地から集まった〈カンタオール〉たちのコンクールが行われる。

1923 25歳
1月5日、ファリャの協力を得て、グラナダの自宅で〈子供たちのための人形劇の集い〉を開く。
春から夏にかけて、素描（デッサン）を描き始める。
夏頃、グラナダ大学で法律の学士号を取得。
秋、サルバドール・ダリが「学生館」に住みに来て、すぐにロルカと知り合う。

1924 26歳
『歌集』中に収められる詩をほとんど全部書き終え、『ジプシー歌集』中の詩を書き始める。

1925 27歳
1月8日、グラナダで「マリアナ・ピネーダ」を完成。
春、ダリの招きで、カタルーニャ地方のカダケスおよびフィゲラスのダリの家に滞在。ダリの妹アナ・マリアと親しくなる。

1926 28歳
3月頃から、グラナダで前衛的な文学雑誌の発行を計画する。これが後に雑誌『雄鶏（ガリョ）』となる。

1927 29歳
2月、グラナダで『雄鶏（ガリョ）』の創刊に努力を傾ける。
5月前半、ダリ兄妹と共に、カダケスおよびフィゲラスのダリの家で過ごす。
5月17日、マラガのリトラール社から第二詩集『歌集』を出版。
6月24日、バルセロナのゴヤ劇場で、マルガリータ・シルグ劇団によって「マリアナ・ピネーダ」が初演され、成功を収める。
6月25日～7月2日、バルセロナのダルマウ画廊で、ロルカの素描展を開催。
12月末、イグナシオ・サンチェス・メヒーアスの仲介により、セビーリャの「学芸協会」で、新世代の詩人たちの詩の朗読会が開かれる。ロルカやホセ・ベルガミンら7人が招かれ、特にロルカのジプシーの詩の朗読が人気を博した。

1928 30歳
2月、グラナダで、『雄鶏（ガリョ）』グループを結成。
3月9日、『雄鶏（ガリョ）』第1号を発行。2日で売り切れる。
街中が〈雄鶏派〉と〈反雄鶏派〉に分かれて、論争が行われる。
7月末、マドリードの西方評論社から、詩集『最初のジプシー歌集』を出版。大成功を収め、ロルカの文名一時に高まる。
10月、グラナダの「学芸協会」で「想像力、霊感、詩の中への逃亡」と題して講演。

1929 31歳
6月、アメリカ合衆国に向けて出発、月末にニューヨークに到着。コロンビア大学の学生となる。
ニューヨークに滞在中、市内各所を歩き回り、美術館、劇場、映画館、音楽会に足しげく通う。またコロンビア大学で「想像力、霊感、詩の中への逃亡」と題して、ヴァッサー・カレッジで「子守唄」と題して講演。
12月16日、ニューヨークの「スペイン協会」主催で開かれたラ・アルヘンティーナをたたえる会に出席、ロルカ、『カンテ・ホンドの詩』の中から数篇を朗読。

1930 32歳
3月、「スペインキューバ協会」に招かれてキューバに渡り、ハバナ中心に各地を回って、「ドゥエンデの働きと、その理論」、「子守唄」、「新しい詩の力学」、「ルイス・デ・ゴンゴラの詩的イメージ」等の講演を行う。
6月頃、ハバナを出発、ニューヨークを経て、夏頃グラナダに帰る。

1931 33歳
5月23日、マドリードのC.I.A.P社から詩集『カンテ・ホンドの詩』を出版。
11月初め、大学生による移動集団「バラッカ」の設立を計画し、「スペイン学生連盟」の支持と協力を取りつける。

ガルシア・ロルカ主要著書



『ロルカ詩集』
世界現代詩文庫（1996） 小海永二 訳
ロルカの日本への紹介・翻訳の第一人者として知られる仏文学者、小海永二による訳詩集。



『ジプシー歌集』＊版元品切れ
平凡社ライブラリー（1994） 会田由 訳
ロルカとフラメンコ文化の深いつながりを示す、代表的詩集の一つ。〈ロマンセ〉というスペインの叙情的物語詩の様式を用いながら、ヒターノ（ジプシー）たちの生を詠む。



1932
34歳

2月、「バラッカ」の計画が共和政府によって、支持・承認され、補助金の支出が決定される。ロルカ、劇団の結成に着手。
3月16日、マドリードの「女子館」で「ニューヨークの詩人」と題して講演と詩の朗読。
3月から6月にかけて、スペイン各地を講演して歩く(「ニューヨークの詩人」「カンテ・ホンド」等の題目で)。
7月10日、ソリア県のエル・ブルゴ・デ・オスマで「バラッカ」の最初の公演。
夏、グラナダ郊外の別荘「サン・ビセンテ農園」で、『血の婚礼』を書き上げる。
10月7日、8日、グラナダ大学400周年記念行事に、「バラッカ」の公演をもって参加。
10月～11月にかけて、マドリードで、大学生を対象に「バラッカ」の公演。
12月19日、マドリードのエスパニョール劇場で、共和国大統領他各界名士や芸術家を招いて「バラッカ」の特別公演。

1933
35歳

3月8日、マドリードのベアトリス劇場でホセフィーナ・ディアス・デ・アルティガス劇団により、『血の婚礼』が初演され大成功を収める。好評のうちに4月2日まで続演される。
6月、ファリャの「恋は魔術師」の「学生館」での上演に協力。
9月、アルゼンチンのブエノスアイレスで、ローラ・メンブリベス劇団によって『血の婚礼』が上演され、観客の熱狂的な反応を獲得。これがきっかけとなって、ロルカはアルゼンチンへの旅行を計画。
10月13日、ブエノスアイレスに到着。市民の歓迎の渦の中に巻きこまれる。
10月25日から、アベニーダ劇場で、ローラ・メンブリベス劇団によって『血の婚礼』の新たな長期公演が始まる。100回目の公演では、ロルカが『カンテ・ホンドの詩』『ジプシー歌集』の中から数篇の詩を選んで朗読。

1934
36歳

1月末から2月半ばまでの20日間、ウルグアイへ。モンテビデオに滞在し、「ドゥエンデ論」、「ニューヨークの詩人」等の講演を行う。
3月25日、アベニーダ劇場でお別れ公演。人形劇が上演される。
3月頃、ブエノスアイレスの「ペンクラブ」にチリの詩人パブロ・ネルーダと共に招待され、ルベン・ダリーオについて対話形式で講演、ネルーダと知り合う。
帰国に先立って、盛大な歓送会が開かれ、スペインの文学大使と呼ばれて、その功績をたたえられる。4月にバルセロナに到着。
5月末、ネルーダ、マドリードにチリの領事として着任、ロルカと親交を結ぶ。
7月頃、『イェルマ』を完成。
8月11日、マンサナレスの闘牛場で、友人イグナシオ・サンチェス・メヒーアスが牛の角に刺されて重傷を負い、13日、死亡。
12月29日、マドリードのエスパニョール劇場で、マルガリータ・シルグ劇団によって『イェルマ』が初演され、ロルカとシルグとに敵意を持つ右翼の妨害にも拘わらず、成功裡に終わる。この公演は論議の対象となりながら、翌年の4月2日まで続演された。

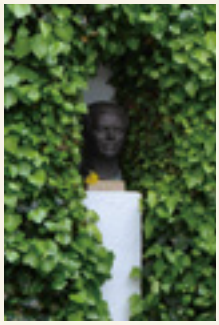
1935
37歳

2月10日頃、ニューヨークで『血の婚礼』が上演される。
8月18日～28日例年どおり「バラッカ」と共にサンタンデールへ。「バラッカ」はこの頃すでに、政府の補助金削減のため、地方巡回公演が不可能になっていた。
秋～冬にかけて、マルガリータ・シルグ劇団による『イェルマ』『血の婚礼』などの公演がバルセロナを中心に行われる。
12月27日、サンティアゴ・デ・コンポステーラのノス社から『ガリシア語による六篇の詩』を出版。

1936
38歳

1月28日、マドリードのエロエ社から、未刊の初期詩篇を収めた詩集『最初の歌』を出版。
2月9日、ソヴィエトから帰国したばかりのコミュニスト詩人ラファエル・アルベルティの祝賀会に、アントニオ・マチャード、ホセ・ベルガミン、ルイス・ブニュエルらと共に出席。スペインの作家たちによる《反ファシズム宣言》を読み上げる。
2月末、アントニオ・マチャード、マヌエル・アサーニャらと共に「平和のための世界連合宣言」に署名。
5月1日、メーデーに参加する労働者たちにあてたロルカの連帯のメッセージが、国際赤色救援会機関誌『救援』誌上に載る。
5月22日、フランス人民戦線の代表としてマドリードを訪れたアンドレ・マルロー、ジャン・カスー、ルノルマンの歓迎集会に出席。
6月10日、『太陽』紙に発表された漫画家バガリーアとの対話の中で、ロルカ、偏狭な右翼ナショナリストたちを批判、自分は世界中のすべての人々の兄弟だと語る。
6月19日、『ベルナルダ・アルバの家』を完成。
7月13日夜、グラナダに向けてマドリードを経つ。14日朝、グラナダ着。
7月17日、スペイン内戦勃発。
8月5日頃、ルイス・ロサーレスの家に避難。
8月16日(または15日)、ロサーレスの家で、ロルカ逮捕され、県庁舎に連行される。
8月19日朝、グラナダ近郊ビスナールの「フエンテ・グランデ(大いなる泉)」の近くのオリーブ畑の中で、銃殺される。







グラナダにあるロルカの生家、現在は記念館となっている。

Información

MUSEO-CASA NATAL
FEDERICO GARCÍA LORCA
Fuente Vaqueros –GRANADA–

住所：C/ García Lorca 4,
18340 Fuente Vaqueros (Granada)
電話：+33 958 51 69 62
http://www.patronatogarcialorca.org



『三大悲劇集 血の婚礼 他二篇』
岩波文庫(1992) 牛島信明 訳
アンダルシアを舞台とした悲劇三部作「血の婚礼」「イェルマ」「ベルナルダ・アルバの家」を収録。



『対訳 タマリット詩集』新装版
影書房(2017) 平井うらら 訳
最も難解といわれるロルカ最晩年の詩集。原文と対訳文を見開きに収め、わかりやすく詳細な解説を付す。〈ガセーラ〉と〈カシーダ〉というアラブ詩の様式を用いる。

ピアニスト・下山静香の

音楽の時間

ガルシア・ロルカと音楽
その6


《血の婚礼》上演の日のロラ・メンブリベスとロルカ

ロルカへのオマージュ3　―そして ブエノスアイレスのロルカ―

前号では、フランスのプーランク、そしてソ連のショスタコーヴィチによる「ロルカへのオマージュ」をみてきた。今回はまず、20世紀前半に活躍したメキシコの作曲家、シルベストレ・レブエルタス(1899-1940)の作品に触れてみよう。

レブエルタスは、ヴァイオリニスト、指揮者としても活動した作曲家で、同年生まれのカルロス・チャベスとともに、同時代のメキシコ音楽の普及に努めた人物である。完全な左派だったレブエルタスは、1936年、メキシコの「革命的作家・芸術家同盟(LEAR)」の会長に就任している。LEARは、ファシズム、トロツキズム、帝国主義に反対し、サンディカリズムとスターリニズムを擁護する立場をとっていた。ちなみにメキシコは、スペイン共和派の亡命者を積極的に受け入れた数少ない国である。メキシコに亡命した著名なスペイン人音楽家には、ロドルフォ・ハルフテル(ファリャの弟子。「8人組」のメンバー)がいる。

レブエルタスは、ロルカが銃殺されたことに大きなショックを受け、その名も《フェデリコ・ガルシア・ロルカへのオマージュ》という作品を完成させている。初演が行われたのは1936年11月4日だから、ロルカの死からまだ3ヶ月も経たない頃である。メキシコ舞踏風の楽しい楽章に、シリアスな楽章がはさまれる形の室内管弦楽曲で、第1楽章と第3楽章は、まさにメキシコ的なリズムが躍る明るい曲調となっている。第2楽章は、ロルカ哀悼(Duelo por Garcia Lorca)と名付けられており、短いながら、どこかマルティネーテを連想させる不思議な雰囲気をたたえている。マルティネーテとは、ロマ(ジプシー)の生業のひとつだった鍛冶屋の仕事から生まれたとされる、フラメンコの古い曲種のひとつ。金床を打つ音を伴奏として歌われるものだが、この第2楽章では、シロフォンと弦楽器のピツィカートによるオスティナートが、そんな音を彷彿とさせる。

翌1937年、レブエルタスはLEARのメンバーとともに内戦中のスペインに赴き、オーケストラを指揮するなど音楽活動を行っている。しかし、スペインで起きているあまりにも悲惨な現実を目のあたりにして、無力感と悲壮感に打ちのめされてしまう。フランコ率いる叛乱軍が勝利し、メキシコに戻ったレブエルタスは、酒量が増えアルコール中毒に陥り、内戦終結の翌年、40歳という若さで亡くなってしまうのだった。

ラテンアメリカといえば、ロルカ自身も赴いている。1930年にはキューバを訪れているが、より長く滞在したのはアルゼンチンである。1933年3月、戯曲《血の婚礼》の初演にあたって、ロルカは当時人気絶頂だったアルゼンチン人女優ロラ・メンブリベスに母親役を演じてもらいたいと思っていた。彼女はすでにスケジュールが混んでいてスペインでの興行には参加できなかったが、帰国前にロルカと会い、この作品をブエノスアイレスの劇場にかけることで合意する。

メンブリベス一座は、さっそくアルゼンチンやウルグアイで《血の婚礼》を上演、大成功を収めた。ロラの夫兼マネージャーのレフォルソは、ブエノスアイレスでの再演にはぜひ原作者であるロルカにも来てほしい、と要請を出していた。また、ブエノスアイレスの芸術同好会から講演の招聘を受けたこともあり、アルゼンチン行きを決めたロルカは、9月29日、船でバルセロナを発つ。ブラジル、ウルグアイを経由し、2週間後にブエノスアイレスに到着、すでに名

声を得ていたロルカは、各地の人々に熱狂的に迎えられた。

当時ブエノスアイレスでは、タンゴ熱が高まりをみせていた。ロルカはこの町で、同じ言語を使いながらも、スペインで聴かれる音楽とは異なるタンゴ ―― その音楽と詩を、持ち前の繊細な感性で味わったに違いない。ロルカは常に、民謡、すなわち「人々の営みから生まれる唄」に深い愛着を感じていた。凝縮されたアンダルシアの魂とも言うべきフラメンコを愛したロルカが、ブエノスアイレスの空気を吸って育ったタンゴに魅かれ、その価値を認めたのも、ごく自然なことと言えるだろう。フラメンコの真髄であるカンテ・ホンドがたたえる悲劇的な心情、どうにもならない苦しみや嘆きを、タンゴはタンゴの流儀で表現している……　特に、「愛」にまつわる不幸について、両者はそれぞれのスタイルで歌い、人の心をとらえているのだった。

11月16日、ロルカは、タンゴ界のスター、不世出の歌手と賞されるカルロス・ガルデルと知り合う。ロルカは、セサール・ティエンポ原作による舞台の劇場リハーサルに立ち会ったあと、彼と出会ったのだった。大いに意気投合した2人は一晩中歌い、また語り合った。ガルデルはロルカに、「君は、いつタンゴを書いてくれるんだい？君たちアンダルシア人は、僕たちと同じようにセンチメンタルな人種だから（きっと書いてくれるだろうね）」と言ったという。この1年半後、ガルデルは、飛行機事故で不慮の死を遂げることになるのだが……。

ロルカはこの地で、タンゴ作詞家・作曲家のエンリケ・サンチェス・ディセポロとも友情を結んだ。彼の代表作《ジーラ・ジーラ》などを、ロルカも聴いているはずである。

しかしロルカは、どこまでも「アンダルシアの子」であった。どんなに魅力的でも、「ブエノスアイレスの心」を歌い奏でるタンゴは彼の領域ではなかったのだろう。

ブエノスアイレス滞在は半年に及んだ。その間、ロルカの人気は衰えを知らず、新聞や雑誌に登場しない日はないほどに注目された。2度目に行った講演では、スペイン民謡のピアノ弾き語りを披露して、人々に「音楽家としてのロルカ」も印象づけたのだった。

ロルカは翌年4月、再び航路でスペインに戻る。不在だった半年のうちに、スペインの政情は変化していた。セマナ・サンタ（聖週間）を過ごすために帰った故郷グラナダも、議会が保守派に取って代わられ、労働者階級を高圧的に扱うようになっていたのだった。

そしてその2年後、内戦が勃発することになるのである。

「ロルカへのオマージュ」は、彼の作品と深いつながりのあるフラメンコの世界でも顕著だ。《ロルカのスペイン古謡》は、クラシカルなスペイン歌曲の定番レパートリーになっているのみならず、カルメン・リナーレスをはじめとする唄い手たちにもフラメンコのスタイルで歌われているし、2010年に惜しまれつつ亡くなった巨匠エンリケ・モレンテも、ロルカの詩によるカンテを数多く歌っている。

ロルカの世界はこれからも、様々なかたちで語り継がれ、演じられ、また歌い演奏されていくことだろう。私としては、「音楽家になりたかったロルカ」の一面を、見つめていきたいと思うのである。



下山静香 / Shizuka Shimoyama

桐朋学園大学卒。99 年、文化庁派遣芸術家在外研修員として渡西、マドリード、バルセロナほかで研鑽。NHK-BS、E テレ、フランス国営ラジオなどに出演。海外アーティストとの共演多数。CD《ゴィエスカス》《ショパニアーナ》など 10 枚、共著は 10 冊以上を数える。翻訳書『サンティアゴ巡礼の歴史』。2015 年より「下山静香とめぐるスペイン　音楽と美術の旅」ツアーシリーズを実施。桐朋学園大学、東京大学 非常勤講師。日本スペインピアノ音楽学会理事。
Official Web Site　http://www.h7.dion.ne.jp/~shizupf
裸足のピアニスト・下山静香のブログ　http://ameblo.jp/shizukamusica
★ 第 9 弾 CD《グラナドス ゴィエスカス》fontec より好評発売中！

Información

☆エッセイ『裸足のピアニスト』刊行（ヤマハミュージックエンターテインメント）
☆《下山静香 in アルバラシン》アラゴン州のアルバラシンで録音した演奏会ライブCD リリース
★ 11/19（日）春日部音楽祭 出演　vn. 佐藤久成 & pf. 下山静香（春日部市民文化会館 大ホール）
★ 12/11（月）グラシアクリスマスお茶会　（桐生市市民文化会館 国際会議室）
★ 12/17（日）クリスマスコンサート　vo. 真幸操 & pf. 下山静香（船橋市・ピアノサロン樂）
★ 1/8（月・祝）ピアノトリオ　vn: 寺島貴恵、vc: 藤村俊介、pf: 下山静香
（富士市・ハウスゾンネンシャイン音楽堂）
★ 1/26（金）27（土）パレット音楽祭（渋谷ラトリエ）

パンとチーズとワインがあれば、

スペイン料理 あれこれ話

vol.9 Pollo en pepitoria

文・写真　渡辺万里

1950年代のマドリードの下町。広場に面したバルは、朝から近所の人たちで賑わっている。そこへ、威勢のいいバルのおかみさんの声が響く。「今日の昼のメニューは、鶏肉のペピトリアだよ！」

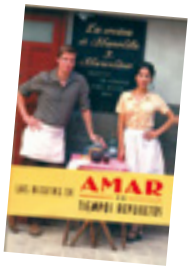
これは、私の空想のなかのワンシーン。何年も気に入って見ていたスペインテレビ国営放送の連続ドラマ「Amar en Tiempos Revueltos（揺れ動く時代の愛）」のイメージを、そのまま使わせてもらっています。内戦後の人々の愛憎や事件を描いたこのドラマ、ストーリーだけでなく、舞台であるマドリードの下町のバルの様子や出てくる料理も面白く、楽しんで見ていました。

このドラマで実際にペピトリアを出すシーンがあったかどうかは記憶にないのですが、時代背景といい、場所といい、これこそペピトリアが出てくるのにぴったりというシチュエーション。古き良き下町のバルで、定食の人気メニューだった料理。今でもマドリードの下町っ子たちに愛される鶏肉のペピトリアを、ご紹介しましょう。



¡EL MÉNU DE HOY ES... POLLO EN PEPITORIA!





Amar en Tiempos Revueltos
上：バルシーン　右：同ドラマの料理本

マドリードは江戸に似ていた？

そもそもマドリードは、そんなに古い町ではないのです。スペインの長い歴史のなかに登場するさらにずっと昔から栄えていた都市、たとえばトレドやグラナダに比べると、むしろ新興都市と言っていいでしょう。

カスティーリャ王国という内陸スペインの権力の象徴として選ばれた首都マドリードは、一方のアラゴンの首都バルセロナが地中海へと向かって開かれた港町であるのと対照的に、イベリア半島の真ん中に位置しています。その新しい首都に、人々が各地から移住してくる。大雑把に言ってしまうと、仕事があり政治があるから人々が集まってきてできた町が、マドリードということになります。

そう考えると、ちょっと江戸に似ていると思いませんか？　江戸も、鎌倉や京都と比べると新興都市だった。そこに政治の中枢ができたから人々が集まってきて、土着の人々が少ないからこそ新しい気風の町ができたのです。

江戸の場合は参観交代という事情もあって、単身赴任の男性たちが多かったから、買い食いや外食の習慣が生まれました。一方、都市設備、今でいうインフラがないのに首都になってしまったマドリードも、何もないところにできてしまったから買い食いが発達し、通りを物売りが闊歩していました。初期のマドリードの町並みを描いた版画には、「油売り」や「水売り」の姿があって、水ですら、通りをいく行商人から買っていた様子が想像されます。

農民が基盤になっていないから都市生活者たちが町の基盤をつくり、技術者や商人が織り成す町民文化が花開いた。その猥雑なまでの活気も、江戸と似ている気がしますね。

そんな町だからこそ、そこで生まれた食文化も、方々から寄り集まってきた人々が新たに生み出した郷土料理ということになります。風土的側面から、ラ・マンチャらしい田舎料理はあります。でも、南部アンダルシア出身の人や西隣のエストレマドゥーラ、あるいは北のカンタブリア海沿いからやってきた人々も一緒になった町ですから、料理も混ざり合い、「マドリード料理」という新しいジャンルができていきます。例えば、以前ご紹介した「コシード・マドリレーニョ」や、今でもマドリードといえば欠かせない「カジョス・マドリレーニョス」、そして今回の「ポジョ・エン・ペピトリア」などです。



マドリードの物売りの版画

冒頭に挙げたテレビドラマでも、舞台となっている広場のバルはアストゥリアス地方出身の家族がやっていて、そこのメニューもアストゥリアスの郷土料理とラ・マンチャの料理が微妙に入り混じっていました。それがその頃のマドリードでは、ごく普通だったのでしょう。

内臓は庶民の味方だった！

さきほど「カジョス（牛の胃袋、ハチノスと呼ばれる部分）」のマドリード風を挙げましたが、この胃袋の煮込み料理は、ひと昔前まで本当にポピュラーな庶民の献立でした。内臓料理というジャンルそのものが、マドリードの人々の生活に深く定着していたからです。

肉でありながら価格が安い内臓類は、安価なタンパク源として庶民の強い味方でした。カジョスは、冬の名物料理。セソス（脳みそ）も好まれるし、イガドス（レバー）もレングア（舌）もウエボス（睾丸）も登場します。さらにカベサ（頭）、オレハス（耳）、カレタ（ほっぺた）、パタス（足）、サングレ（血液を固めたもの）など、デスポソ、つまり要らない部分、捨てるような部分に、かつての庶民の食卓のレパートリーの多くが依存していたのです。

こんな話をしたのは、ペピトリアもかつてはデスポソを使って作る、ごく質素なつつましい料理だったと思われるからです。古典スペイン語の辞書、コロミーナスの辞書では、ペピトリアは「鶏の食べられる部分すべてを使う煮込み料理」と定義されています。

ペピトリアは16世紀の料理書にすでに登場していますが、その頃のレシピでは「鶏1羽」となっていて、1羽の鶏をぶつ切りにして余すところなく使ったことが想像されます。それどころか鶏そのものも、ポージョ（若鳥）ではなく、相当肉の硬くなった親鳥であることも多かったようです。料理の名前そのものが「ガジーナ（雌鶏）」とか「ガジョ（雄鶏）」となっていることも珍しくありません。







マドリードの市場
a. 鶏肉店
b. 臓物店
c. 市場のバルのペピトリア

ということは、本物のペピトリアを食べようと思ったら、昔ながらの料理を頑固に作り続けているような店に行かなくてはなりません。そう思って探していた私に、マドリード生まれのマドリード育ち、俗に「ガト（猫）」と呼ばれる生粋のマドリードっ子の友達が教えてくれたのが、古いタベルナのひとつ、「カサ・シリアコ」でした。彼は「ペピトリアなら、ここだよ。美味しいそうだ。あ、僕はビールを飲みにいくだけで、食べたことはないけど」と言うのです。スペインでレストランに行ったことのある方はご存知だと思いますが、入ったところにまずカウンター形式のバルがあり、そこで食前の1杯を飲んでから食堂に移動して食事をするのが普通です。地元の人たちはバルだけの利用も多く、実は彼らバルの客こそ、店の評判を左右するメンバーだったりします。そのバルの常連が言うのですから、この店のペピトリアの評判は信用してもよさそうです。

老舗の魅力は、マドリードっ子の心意気

マジョール通り一角の老舗のタベルナとして知られる「カサ・シリアコ」を訪れた私と友人たちは、たっぷりと「古き良きマドリード」を堪能することになりました。まず店の構えがクラシック。今や存在しなくなったかと思っていた、プライドたっぷりの昔ながらのカマレーロ（給仕）のサービスもクラシック。そしてもちろんメニューは、マドリードの名物料理ばかりです。

カマレーロの売り込みがうまいので、ついと注文してしまいます。ジューシーに焼けたチョリソ。パスタの入ったコシードのスープ。クロケッタ。アーティチョークのソテー。さっくり美味しいパン……。全部食べていたら肝心のペピトリアまで辿り着かないのではと心配になるようなボリュームですが、どれも懐かしい味のプリメール・プラト（1皿目の料理）で、私たちは大いに楽しみました。

そしてペピトリアは？　見た目も味も思ったよりあっさりと品良く仕上げてあって、ぺろっと平らげることができました。鳥の骨のスープとアーモンドで、ソースの味はまろやか。ちゃんとサフランの香りもします。素朴だけれど、きちんとレストランらしい料理になっています。昔のレシピは、もう少しエキゾチックにスパイスが効いていたように思いますが、数世紀を生き抜いてきたレシピ、少しずつ変わってきていても不思議はないですね。

「ペピトリアは、ポジョ・デ・コラル（放し飼いの若鶏）で作るのが本物。うちではちゃんと、田舎で育った鶏を使ってるよ」とカマレーロが威張ります。小屋に閉じ込めて太らせたブロイ







マドリードの老舗「カサ・シリアコ」
d. 1皿目の料理
e. 名物ペピトリア
f. クラシックな店内

ラーではなく、農家の庭でエサをついばみながら歩き回っている鶏の引き締まった肉質こそ、煮込みが美味しくなる秘訣だということですね。

実は、いずれ訪れたいペピトリアの店がもう1軒あります。それはマドリードからトレドに向かう街道筋のポサーダ（元々は宿屋だったレストラン）で、そこでは自分のところで放し飼いにしている鶏で作るペピトリアが名物なのです。その店なら、味付けももっとワイルドではないかと想像されるので、やはりそのうち行ってみなければなりません。

サフラン登場！

さて、ペピトリアの古いレシピにはサフランが使われています。このサフラン、スペインでは色々な料理に使われるポピュラーなスパイスと思っている方が多いようですが、スペインの庶民の家庭にはサフランは滅多に置いてありません。というのも、とても高価なスパイスだからです。パエリアだって、黄色いのはサフランではなくてほとんどの場合が着色料です。

「でもスペインに行くとお土産として、サフランを売っているじゃないの」という意見はごもっとも。それは、スペイン人がサフランを使うからではなく、スペインが世界でも有数の良質のサフラン産地だからです。

広大なラ・マンチャの平原に広がるクロッカス畑。その花ひとつから3本しかとれない雌しべを手摘みで集めて乾燥させるサフラン製造作業は、気の遠くなるような面倒さ。見渡す限りの畑から、ほんのわずかな量しかできないと聞けば、高いのも無理はないと頷くしかありません。

そのサフランをこんな庶民的な料理に使うのはもったいない気もしますけれど、サフラン産地に近い中央部の料理だからこそ、ほのかなサフランの香りを楽しむという贅沢が許されたのかもしれませんね。

さて、古いレシピといいましたが、一体どれくらい古いのか？　ペピトリアは、おそらくアラブ起源であろうとスペインではいわれていますが、少なくとも1763年に出版されたフェリペ3世の料理人、マルティネス・モンティーニョの本には、れっきとしたスペイン料理のレシピとして登場します。そしてこの本のレシピでは、サフランが使われています。現在のレシピと違うのは、アーモンドだけでなく色々なドライフルーツが使われていること。ヘーゼルナッツや松の実も加わって、より濃厚な風味だったろうと想像できます。ドライフルーツ、サフランとなるとやはりアラブの味の系列ですね。

現代のレシピでは、どうしても欠かせないのはアーモンドと卵黄だけ。サフランは、あれば入れてもいいという程度になっています。そのあたりはこだわらずに、まろやかな味の鶏肉煮込み料理として楽しんでくださいね。

ゆで卵の卵黄がソースの大切な主役なので、余ってしまう卵白の部分を散らして盛り付けるのは良いアイデアだと思っていたのですが、「カサ・シリアコ」では、使っていませんでした。

「卵白は載せないの？　余って困らない？」と聞いたら「余るから載せるなんて、そんな景気の悪いことはしないね！」というカマレーロの返事。こういう風に強がったり粋がるところも、マドリードっ子と江戸っ子の共通点かもしれませんね！







g. トレドの古いポサーダ
h. トレドのポサーダのペピトリア
i. サフラン畑
j. マルティネス・モンティーニョの料理本（18 世紀）
k. マドリード料理の代表としてフォーラムにも登場

Información

Casa Ciriaco | カサ・シリアコ

住所：Calle Mayor, 84, 28013 Madrid
電話：+34 915 48 06 20
営業時間：13:00 ～ 16:00 / 20:00 ～ 24:00（水曜日定休）






渡辺万里 / Mari Watanabe　学習院大学法学部政治学科卒。1975年よりスペインで食文化史の研究に取り組むと同時に、スペイン料理界最前線での取材に従事する。1989年、東京・目白に『スペイン料理文化アカデミー』を開設。さらに各地での講演、執筆などを通してスペイン文化の紹介に携わっている。早稲田大学グローバルエデュケーション非常勤講師。著書に「エル・ブジ究極のレシピ集」（日本文芸社）、「修道院のうずら料理」（現代書館）、「スペインの竈から」（現代書館）など。

<スペイン料理文化アカデミー>
スペイン料理クラス/スペインワインを楽しむ会/フラメンコ・ギタークラスなど開催
〒171-0031 東京都豊島区目白4-23-2
TEL: 03-3953-8414　HP: www.academia-spain.com

日本のサン・セバスチャンをめざして。
歴史ある美食のプレミアムリゾート・軽井沢から美食文化（ガストロノミー）を発信します。
軽井沢の歴史ある「美食（ガストロノミー）文化」を支えているのは、豊かで良質な食材を届けてくれる信州の生産者たちと、
新鮮な食材を芸術作品の域にまで昇華させる地元レストランの人気シェフたち。当プロジェクトは彼らの料理や表現を通して、
美食文化を全国に発信し、軽井沢を「美食の聖地、日本のサン・セバスチャンに！」と願い活動しています。
お問い合せ　Karuizawa Gastronomy Project　美食リゾート軽井沢プロジェクト
http://bishoku-karuizawa.com/　info-spain@mbh.nifty.com　［スペイン料理文化アカデミー］
美食リゾート 軽井沢
Karuizawa Gastronomy Project

鶏肉のペピトリア

Pollo en pepitoria

元々は鶏を丸ごと全部使う料理ですから、できれば骨つきの部位も使いましょう。より美味しくなります。手羽先や手羽元を加えてもいいですね。アーモンドはスライスを使いましたが、ホールでも粉末でもかまいません。ボリュームアップしたい方は、ポテトフライを添えて、どうぞ。

材料

鶏もも肉（できれば骨つき）	2 枚
塩、小麦粉	少々
ニンニク	2 かけ
オリーブオイル	1/4 カップ
玉ねぎ（粗みじん切り）	1 個
小麦粉	小さじ 2
白ワイン	1/2 カップ
水	1/2 カップ
サフラン	少々
ナツメグ	少々
ローレル	1 枚
アーモンド	30 グラム
ゆで卵	2 個
塩（仕上げ用）	少々







作り方

❶ 鶏肉はぶつ切りにして塩をし、軽く粉を叩いておく。
❷ フライパンにオリーブオイルを熱し、鶏肉とニンニクをこんがり焼く。取り出して、肉は土鍋にいれる。
❸ 2のフライパンに玉ねぎを入れて、ソフリート（低温でゆっくりソテー）する。
❹ 小麦粉を加え、よく混ぜたら白ワインと水を注ぐ。ナツメグ、サフラン、ローレルを加える。
❺ 土鍋の鶏肉に4をかけて煮込む。
❻ 焼いたニンニクとアーモンドと卵黄をモルテーロ（すり鉢）でつぶし、少量の水で溶く。
❼ 土鍋に6を加える。弱火で30分くらい煮てから、塩味をととのえる。
❽ 卵白を刻んで載せたらできあがり。

❶


❷


❸


❹


❺


❻


❼


❽


donQuijote

スペイン語コース

1986年創立

スペイン語を生きよう

スペイン　ラテンアメリカ









年間3万5千人・85ヶ国からの留学生が受講中（アジアからの留学生は10%以下）。

スペイン・メキシコ・コスタリカ・エクアドル・ラテンアメリカ諸国計32都市の校舎にて受講頂けます。

多彩なスペイン語コースから、あなたのニーズにあったコースをチョイス。

徹底した少人数制（最大8名・平均4名）。

現地日本人スタッフのきめ細やかなサポート。



ヘッドオフィス　Tel.: +34 91 594 37 76　|　keiji.tanimura@donquijote.org

アリカンテ/バルセロナ/グラナダ/マドリッド/マラガ/マルベーリャ/サラマンカ/セビリア/テネリフェ/バレンシア（スペイン）
アルゼンチン/ボリビア/チリ/コロンビア/コスタリカ/キューバ/ドミニカ共和国/エクアドル/グァテマラ/メキシコ/ペルー（ラテンアメリカ）

Instituto Cervantes Centro Acreditado

www.donQuijote.org/jp

ideal education group

International House
San Sebastian

LACUNZA

サン・セバスティアンでスペイン語と文化を学ぼう！

ラクンサ・インターナショナル・ハウスは，スペイン北部
バスク地方のサン・セバスティアンにあります。

スペインとバスク，伝統と革新。
2つの文化が融合するサン・セバスティアンは，食文化で世界的に有名な街です。

サン・セバスティアンで，スペイン語と文化を学び，新しい味の体験を！



+25
年の実績

独自の文化



お問い合わせは

Lacunza International House
Camino de Mundaiz 8,
Entlo D, 20012
San Sebastián,
España

+34 943.32.66.80
info@lacunza.com
www.lacunza.com

lacunza.ihsansebastian
lacunzaih
lacunzaihss

D.E.L.E.試験準備コース4週間

インターナショナル・ハウス提携校

Diplomas de Español como Lengua Extranjera

Centro Acreditado

fedele
Federación de Escuelas de Español Lengua Extranjera

IALC
International Association of Language Centres



(C) Antonio Perez



バイラオール

SIROCO
ロンダのコンクール優勝

XXIII Concurso Nacional de Cante y Baile “Aniya La Gitana” de Ronda 2017
第23回 アニージャ・ラ・ヒターナ・デ・ロンダ

文 / 月刊パセオフラメンコ 編集長　小倉泉弥
Texto por Senya Ogura

スペイン南部アンダルシア地方のマラガ県に、ロンダという街がある。ここに拠点を置くペーニャ(愛好会)「トバロ、フェルナンダ・イ・ベルナルダ」が主催する、第23回「アニージャ・ラ・ヒターナ・デ・ロンダ」で、フラメンコ舞踊歴15年のSIROCOが、日本人男性舞踊手として初優勝を飾った。

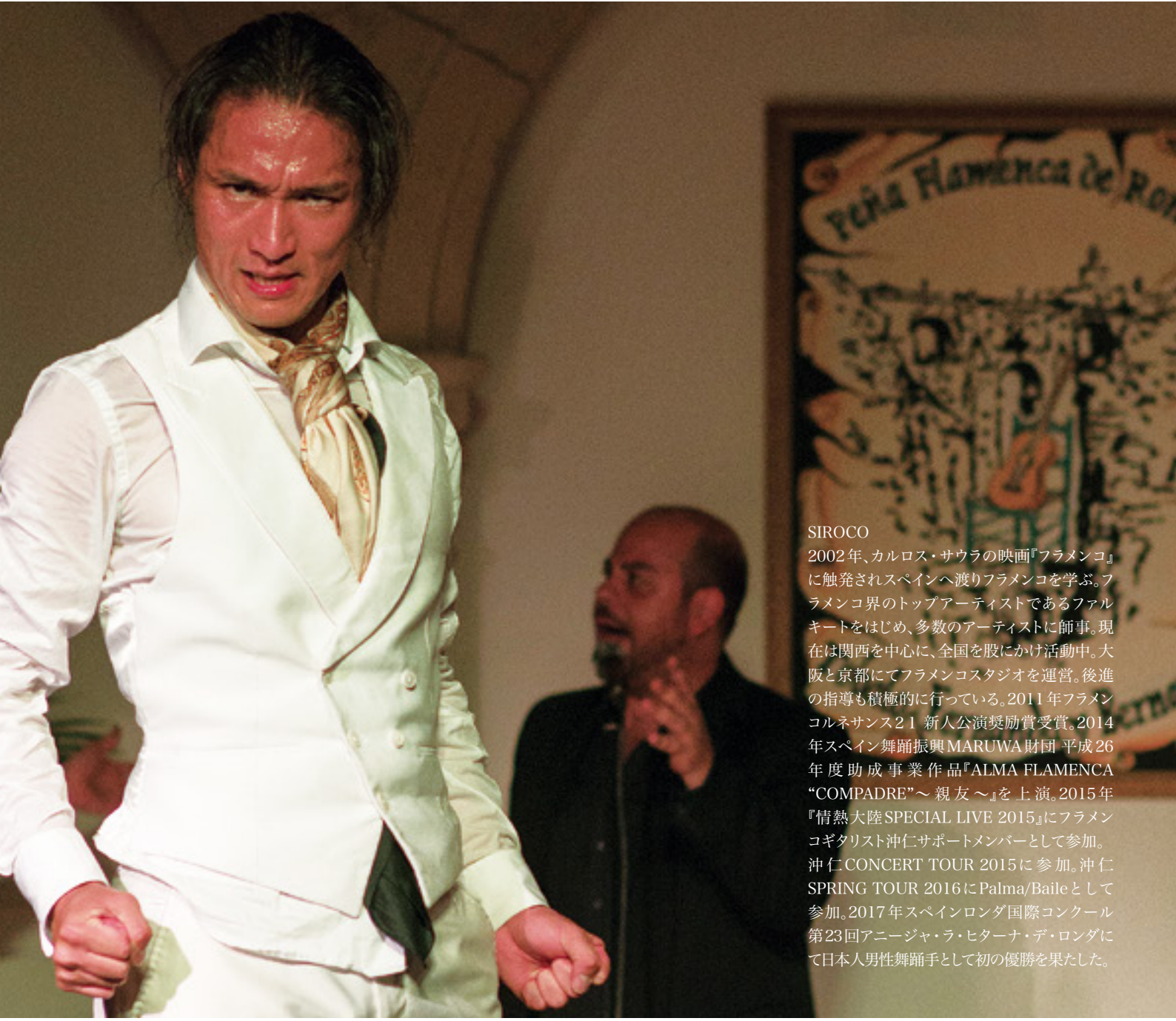
今や日本で若手の中心的存在になってきたSIROCOは、その知名度を特にここ数年でみるみる上げ、舞台に立てば「次は何をやるのだろう?」と常に期待を持たせる踊り手に成長した。ここまで業界を内側から賑わせているアーティストは他にいない。しかし、SIROCOは本番当日まで悩みの中にいた。その理由は、コンクールでSIROCOを唄で支えたファン・カンタローテの言葉だった。

「これまで、日本人のフラメンコをたくさん見てきたけど、フラメンコをできる奴はあまり見たことがない。お前は踊りの技術も、容姿も、すべてのコンディションがすごくいい。お前はフラメンコができるはずだ。でも、お前はまだフラメンコを知らない。一曲の中で、ときどき顔を出すけどな。いいか、お前の体の中に手を突っ込んで、心臓をつかんで取り出せ！　この意味がわかるか?」

フラメンコの本質を鋭く突く言葉に、SIROCO は戸惑いを隠せなかった。課題を突きつけられた SIROCO だったが、予選の翌日にたまたま同じアンダルシア州にあるグラナダ県を訪れていた。その闘牛場での出来事だった。

「そこは 3,000 人規模のコロシアムでした。闘牛もフラメンコの足しになるかな……と思って観ていました。

そしたら、場面が進むにつれて、足しになるとかそんなことを言っている事態じゃなくなってきた。牛が槍を刺される。『オレ！　オレ！』と客が騒ぐ。闘牛場が騒然と



SIROCO
2002年、カルロス・サウラの映画『フラメンコ』に触発されスペインへ渡りフラメンコを学ぶ。フラメンコ界のトップアーティストであるファルキートをはじめ、多数のアーティストに師事。現在は関西を中心に、全国を股にかけ活動中。大阪と京都にてフラメンコスタジオを運営。後進の指導も積極的に行っている。2011年フラメンコルネサンス21 新人公演奨励賞受賞。2014年スペイン舞踊振興MARUWA財団 平成26年度助成事業作品『ALMA FLAMENCA "COMPADRE"～親友～』を上演。2015年『情熱大陸SPECIAL LIVE 2015』にフラメンコギタリスト沖仁サポートメンバーとして参加。沖仁CONCERT TOUR 2015に参加。沖仁SPRING TOUR 2016にPalma/Baileとして参加。2017年スペインロンダ国際コンクール第23回アニージャ・ラ・ヒターナ・デ・ロンダにて日本人男性舞踊手として初の優勝を果たした。

(C) Antonio Perez

なる。それがしばらく続いて、とどめを刺す瞬間に近づくと、あれだけ騒いでいた客が全員、一瞬で押し黙ってしまった。牛と闘牛士の、2人の息づかいしか聞こえない。得体の知れない魔性を感じました。

2人を観ながら、僕は真ん中にいる闘牛士に自分を重ねていました。目の前に血を噴いて涙を流す牛がいる。闘牛士もまた、自分が死ぬことを覚悟している。

フラメンコを踊る人は、もしかしたら自分が死ぬことを覚悟しているのかなと、自分なりに解釈しました。この感覚をホテルに持ち帰って、本選の当日まで、ずっと考えていました。日にちが迫ってきても、わからないなりに、とりあえずそういう気持ちで出よう！　と。

フラメンコは、その人自身をえぐり出すことに意味があるから。」

そして本番の舞台に上がり、SIROCOは優勝を勝ち取ったのだった。

SIROCOのインタビュー全文は、月刊パセオフラメンコ2017年11月号でお読みいただけます。



月刊パセオフラメンコ
価格：792円(税込)
http://www.paseo-flamenco.com/

デザイン素材/コラージュ:wool, cube.wool

スペイン留学.jp

「スペイン語」留学しょ!

語学を習得するにはしっかり勉強することも大事ですが、欧米ではバカンス感覚で語学留学し、スペイン語を学んでいる人もたくさんいます。スペイン語圏に行ったら、思い切り楽しみましょう!



新鮮な食材が集まる市場

野菜、果物、肉、魚介類が買える市場。気軽に飲み物とタパスを食べられるバルが入っている市場もあるので、お腹が空いたら休憩するのもおすすめ。現地の人が気軽に話しかけてくれます。

Vamosr el almuerzo

Tour de Tapas



タパスツアー

留学生と先生が一緒に放課後バルへくり出し、お喋りを楽しみます。スペインではビール1杯1ユーロと少し(日本円で150〜200円くらい)。飲み物とタパスと共に異文化交流♪

¡Activi アクティビティ

語学学校では放課後、留学生が楽しめるように様々なアクティビティが企画されています。時期や地域によっても内容は異なり、参加費は無料

Fiesta de la paella



料理

大きな鍋を使ってパエリアを炊いて皆で食べます。ザ・スペインという感じがしますね。





市内散策ツアー

世界遺産や有名観光地など、現地を知り尽くしたスタッフのガイド付きで楽しめる市内散策ツアー。団体割引が適用される場合もあるので、個人で行くよりお得になることも…!





Comunicación con nativos

学校併設バルで異文化交流

校舎内に学生以外の現地スペイン人も利用できるバルが併設されている学校もあります。異文化交流したい地元の人も集まるので、友達も作りやすい!知り合いができれば、そこから交友関係も広がります。



Flamenco

フラメンコ・サルサ

本場スペインのフラメンコやサルサなどのダンスを楽しめるアクティビティ。スペイン人や欧米の学生はノリがとっても良いので置いていかれないように…笑



Fiesta de San Fermín



dades!

と有料のものがあります。現地の友達や多国籍の友達ができれば、異文化体験もできて、より充実した留学生活になること間違いなし!

Intercambio

インテルカンビオ（語学交換）

日本語や日本文化、外国の文化に興味のあるスペイン人とインテルカンビオができる学校もあります。教室の外でもスペイン語力アップ!!





フィエスタ（お祭り）

スペイン各地で様々なお祭りが開催されています。その時期に合わせて留学するのもおすすめ。留学生同士で楽しめます。

Surfing





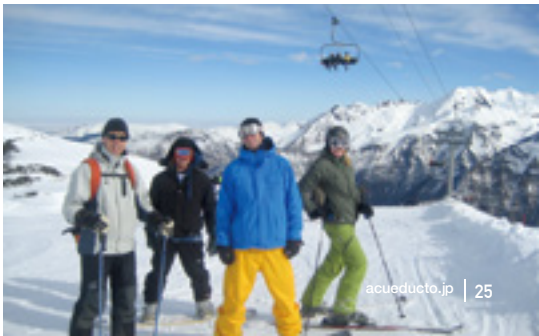
サーフィン

夏に留学するのであればマリンスポーツがおすすめ!スペインの海で一緒にサーフィンしませんか?インストラクターが丁寧に教えてくれます。

Esquí

ウィンタースポーツ

スペイン北部ではスキーやスノーボードを楽しめるアクティビティもあります。日本の雪質とはまた違い、絶対楽しめるはずです!日本では見たことのないリフトがあるゲレンデもありますよ。



Ciclismo



レンタサイクルツアー

スペインのほとんどの都市でレンタサイクルがあります。自転車専用の道路も整備されているのでとても走りやすいです。留学生活の運動不足解消に最適!



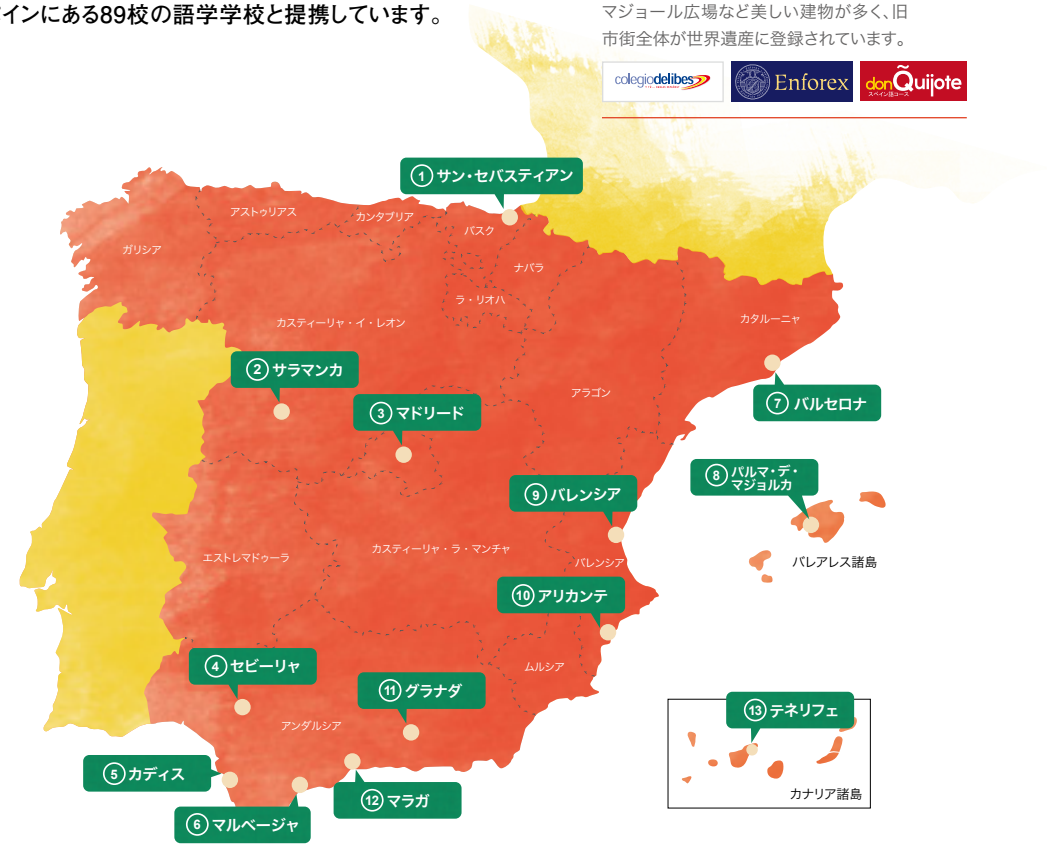
スペイン留学.jp

行きたい場所と学校探し!

留学準備の第一歩は、学校を探すことから始まります。
国ごとに異なる特色を持った魅力溢れるスペイン語圏。
お気に入りの街が見つかれば、より充実した留学生活に!

España

スペインにある89校の語学学校と提携しています。



❶ サン・セバスティアン
San Sebastián

バスク地方独自の文化が息づく街。「美食の都」として有名で、美味しい魚介類やピンチョスが堪能でき、数多くのバルが軒を連ねる通りはいつも賑わっています。

❷ サラマンカ
Salamanca

1218年に創立されたスペイン最古の大学がある学生の街。カテドラル、大学、貝の家、マジョール広場など美しい建物が多く、旧市街全体が世界遺産に登録されています。

colegiodelibes / Enforex / donQuijote

❸ マドリード
Madrid

プラド美術館や王宮など見所いっぱいのスペインの首都。ショッピングやバル巡り、アート観賞も楽しめます。スペインの中心に位置し他の都市へのアクセスも良好。

Enforex / donQuijote

❹ セビーリャ
Sevilla

太陽と青い空がのスペイン南部、アンダルシア地方にある街。少し足を延ばすと、絵ハガキのような白い村が点在し、陽気でのんびりとした空気を肌で感じることができます。

clic / Enforex

❺ カディス
Cádiz

古くから貿易の拠点として栄え、西ヨーロッパで最古の街といわれる。夏は海水浴やウォータースポーツも楽しめます。また好天の多い恵まれた気候も特徴です。

clic

❻ マルベージャ
Marbella

コスタ・デル・ソルの中でも特に人気がある高級ビーチリゾート。美しい公園や庭園、世界トップクラスのゴルフコース、絵のように素晴らしい景色が広がる旧市街があります。

Enforex

❼ バルセロナ
Barcelona

独自の歴史と文化を育んできたカタルーニャの都。ガウディやダリなど数多くの著名人を輩出。「芸術の街バルセロナ」には、今も至る所に多くの芸術作品が残されています。

International House Barcelona / Enforex / donQuijote

❽ パルマ・デ・マジョルカ
Palma de Mallorca

バレンシアの東約80kmの地中海沖合にあるバレアレス諸島で最も大きな島。晴天の日が多く、天候と美しい自然に恵まれ「地上の楽園」と呼ばれる人気のリゾート地です。

International House Palma

❾ バレンシア
Valencia

「火祭り」とパエリア発祥の地として有名な、スペイン第3の都市バレンシア。地中海性の温暖な気候で過ごしやすく、ビーチリゾートとしても知られています。

Enforex / donQuijote

❿ アリカンテ
Alicante

海と山に囲まれ、美しいビーチが点在する都市アリカンテ。コスタ・ブランカと呼ばれる地中海の海岸沿いに位置し、1年を通して穏やかな気候で知られています。

Enforex

⓫ グラナダ
Granada

アルハンブラ宮殿のある世界的に有名なグラナダはアラブ文化の名残を留める古都。大都市にはない落ち着いた美しい街並みが素晴らしく、訪れる価値があります。

Enforex

⓬ マラガ
Málaga

コスタ・デル・ソルの中心地として有名なリゾート地。ピカソの出身地としても有名で、街にはピカソの生家や美術館もあります。国際空港があり、便利なアクセスも魅力。

clic / Enforex

⓭ テネリフェ
Tenerife

大西洋にあるカナリア諸島に属する島。年間を通して暖かく、常春の島とも呼ばれます。毎年2〜3月行われるカーニバルは世界的に有名。島の至る所でパレードが見れます。

donQuijote

手続きはカンタン! >>>

まずは国・都市の情報収集をし、行き先や学校、滞在期間を決めましょう。学校のコースや滞在方法など、なんでもご相談ください。カウンセリングから入学手続き代行、ご出発までサポートしますのでご安心下さい。代行手数料は無料です。

1 情報収集・カウンセリング

「何からはじめればいいの?」「どの街がおすすめ?」「費用はどれくらい?」など漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずはお気軽にご相談下さい。

2 行き先・学校・期間を決める

どんな留学生活を送りたいかをイメージしてみましょう。都会で学びたい、海がある街が良いなど自分に合った街を選ぶと留学生活もさらに充実!



Latinoamérica

中南米にある11ヵ国21都市の語学学校と提携しています。



❶ メキシコ México

首都はメキシコシティ、北アメリカ南部に位置する連邦共和制国家。北にアメリカ合衆国、南東にグアテマラ、ベリーズと国境を接し、西は太平洋、東はメキシコ湾とカリブ海に面している。スペイン語圏において最も人口の多い国で、マヤやアステカの遺跡など歴史的な見所がたくさんあります。

International House Riviera Maya リビエラ・マジャ校

donQuijote グアナファト校、オアハカ校
プラヤ・デル・カルメン校

❷ キューバ Cuba

キューバは西インド諸島最大のキューバ島とその属島フベントゥ島などのサンゴ礁の小島群からなる社会主義共和国です。1492年にコロンブスが到達して以来、スペインによる植民地支配下に入りましたが、1898年の米西戦争におけるスペインの敗北を機に、1902年に独立を達成しました。

donQuijote ハバナ校
サンティアゴ・デ・キューバ校
トリニダ校

❸ グアテマラ Guatemala

グアテマラは古代マヤ文明発祥の地であり、紀元前2000年には、すでに人々は生活を営み、アメリカ大陸で最も発達した文明のひとつとなりました。この国の特徴は人口の大半が先住民とメスティソ（混血）の子孫だということ。中南米諸国の中でも先住民人口の比率が特に高い国です。

donQuijote アンティグア校

❹ ドミニカ共和国 República Dominicana

ドミニカ共和国は1492年コロンブスの第1回航海で発見され、スペインの植民地開発が初めて行われた地です。西側で国境を接するハイチがフランスの影響を強く受けているのに対して、ドミニカ共和国はスペイン的要素と20世紀以降のアメリカ的要素が多く見られます。

donQuijote サント・ドミンゴ校
ソスア校

❺ コスタリカ Costa Rica

コスタリカは南西部で太平洋、北東部でカリブ海に面しており、北方でニカラグア、東方でパナマとそれぞれ国境を接しています。人口450万ほどの小さな国でありながら、中米で1人当たりの国民総生産が最も高い国。また国土の1/4を自然保護区に指定しており、環境保護に力を入れています。

donQuijote サント・ドミンゴ・デ・エレディア校
プラヤ・ハコ校

❻ コロンビア Colombia

コロンビア共和国、通称コロンビア、首都はボゴダ。南アメリカ北西部に位置する共和制国家です。ブラジル、メキシコに続き、コロンビアは中南米で第3位に人口が多い国です。主要産業はコーヒー、バナナ、さとうきび、じゃがいも、米、熱帯果実、石油、石炭、エメラルドなど。

International House Bogotá ボゴタ校

donQuijote ボゴタ校
カルタヘナ・デ・インディアス校

❼ エクアドル Ecuador

エクアドルとはスペイン語で赤道を意味し、その名の通り赤道直下に位置します。国民の大半がメスティソ（混血）または原住民の子孫。小さな国ながら、積雪した火山、アマゾンの熱帯雨林など地形は非常に豊か。ホエール・ウォッチング、カヤックなど多岐に渡るアクティビティが体験できます。

donQuijote キト校

❽ ペルー Perú

南アメリカ大陸の太平洋沿岸中部に位置するペルー共和国。かつてはインカ帝国繁栄の地であり、スペイン植民地時代にも南アメリカの政治や経済、文化の中心として栄えた歴史を持つ。ペルーには世界的に有名なマチュピチュ、ナスカ、モチェ、インカ文明の魅惑的な遺跡が多く残っています。

donQuijote クスコ校

❾ ボリビア Bolivia

ボリビアの国名は、独立運動の英雄シモン・ボリーバルの名にちなんだもの。世界で1番標高の高い町ラ・パスや世界一標高が高く泳ぐことができるチチカカ湖があります。ボリビアは南米でも貧しい国のひとつですが、魅力的な習慣と伝統が豊かな文化を作り上げています。

donQuijote スクレ校

❿ アルゼンチン Argentina

ブラジルに次ぐ南アメリカ第2の大国。国民の大半はヨーロッパからの移民の子孫です。この国の特徴はイグアスの滝、アンデス山脈、パンパス平原や砂漠など自然の恩恵を存分に受けていること。美しい地形のアルゼンチンはアウトドアスポーツが好きな人にとって最適な国です。

donQuijote ブエノスアイレス校
バリローチェ校
コルドバ校
メンドーサ校

⓫ チリ Chile

南北に細長く伸びる特徴的な国土のチリ。アルゼンチンやウルグアイと同じく、ヨーロッパからの移民の子孫が大半を占めています。ビーチや活火山、アンデス山脈と豊かな自然に囲まれています。チリはその細長い地形から気候も地域によってかなり差があります。

donQuijote サンティアゴ・デ・チレ校

3 コース・滞在方法を決める

授業料などは公表している正規の料金を、現地通貨のままご案内しています。滞在方法は、ホームステイや共同アパート（ピソ）など、ご自分にあった滞在スタイルをお選び下さい。

4 手続き代行 申込書の記入

指定の申込書にご記入の上、スペイン留学.jpへご提出下さい。お申込み内容を確認後、正式に学校への申込み手続きを開始。お申込書の記入は日本語だけでOK！

5 渡航準備

航空券や保険、また学生ビザが必要な方は、申請に必要な書類を集めて所定の機関へ提出します。
※ビザの申請代行や航空券、海外旅行保険などの手配はサポートに含まれません。

6 留学費用のお支払い

留学費＋海外送金費（6,500円）を日本円で指定口座へご入金下さい。
外貨建ての金額は請求書発行日のTTSレートを基準に換算します。

出発



スペイン留学.jp

留学生の一日

留学と一言で言っても10人いればプランは十人十色。
スペイン語以外にあなたがしたいこと、
興味のあることは何ですか？一例をご紹介します。

Aさんの場合

グループレッスンとマンツーマンで短期でしっかりスペイン語を習得!!



★インテンシブ20レッスン+
プライベート10レッスンコースを受講
★共同アパートを選択

このコースでガッツリ勉強！ グループレッスンを受講した後のマンツーマンレッスンでは試験対策や苦手分野（ヒアリング・会話力、文法など）の克服におすすめ。学校のアクティビティは18時頃から始まるので、1日みっちりコースを受講しても問題なく参加できます。



Bさんの場合

午前はスペイン語を勉強、午後からは現地観光とどっちも楽しむ♪



★インテンシブ25を受講
★ホームステイを選択

一週間の短期間でも、観光地が多いマドリードやバルセロナなどの有名どころはほぼ制覇できます。曜日や時期によっては入場料が無料の美術館や観光施設もあるので、要チェック！ ステイ先の家族におすすめのバル・レストランなど現地グルメも教えてもらおう。



Cさんの場合

アクティビティの充実した留学ライフを同年代の仲間たちと一緒に！



★シニアコース（インテンシブ20）を受講
★個人アパートを選択

50代からのシニアコースに含まれている文化プログラムでは、フラメンコ鑑賞、料理教室、オリーブオイルやワインの工場見学など、スペイン語の習得と一緒に様々な体験ができます。同年代の留学生と自分のペースで勉強できるのもシニアコースのメリットです。



スペイン・中南米への留学は
スペイン留学.jp

ご希望に合った学校選びや、プランの作成など幅広くお手伝いしております。漠然とイメージされている留学プランや目的・期間・ご予算など、まずはお気軽にご相談ください。

資料請求
お問い合わせ
www.spainryugaku.jp
info@spainryugaku.jp

4都市にご相談窓口
大　阪 ☎ 06-6346-5554　東　京 ☎ 03-6869-6435
名古屋 ☎ 052-766-6406　福　岡 ☎ 092-517-9535
受付時間：月〜土 8:30〜21:30　有限会社 ADELANTE

携帯・スマートフォンから
はこちらへ



spain 留学 ryugaku .jp
スペイン留学.jp

いつかスペイン語圏に
留学してみたいな～というあなたへ！
お気軽にご参加下さい♪

スペイン・中南米
留学セミナー

Estudiar en el extranjero

入学手続き
無料で代行！

留学先の都市、学校・コース、滞在方法、費用、学生ビザ準備方法、
また、ワーキングホリデーなどの詳しいご説明をいたします。

完全事前予約制

全日程在スペインスタッフ来日

大阪
日時 **11月27日（月）** 18:30～

場所 有限会社 ADELANTE
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-8
千代田ビル西別館 2F

京都
日時 **11月28日（火）** 12:30～

場所 京都外国語大学　R841（8号館4階）
〒615-8558 京都府京都市右京区西院笠目町6

兵庫
日時 **11月29日（水）** 13:30～｜19:00～

場所 神戸サンセンタープラザ西館6階 14号室
〒650-0021 兵庫県神戸市中央区三宮町2-11-1-604号

東京
日時 **12月9日（土）** 10:30～｜14:30～

場所 NPO法人留学協会 会議室
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6-10
MOビル201

セミナー所要時間 **40分** ＋ 個別カウンセリング
（希望者・要事前予約）
現地語学学校の情報コーナー設置予定♪

参加者プレゼント
スペイン留学.jp オリジナル
エコバックや
クリアファイル
などプレゼント！



お申し込み・お問い合わせ スペイン留学.jpのスタッフは全員留学経験者です。

www.spainryugaku.jp　info@spainryugaku.jp
有限会社 ADELANTE（スペイン留学. jp）受付時間：月～土 8:30～21:30
大　阪 ☎ 06-6346-5554　東　京 ☎ 03-6869-6435
名古屋 ☎ 052-766-6406　福　岡 ☎ 092-517-9535

donQuijote スペイン語コース　Enforex



谷村圭治 / Keiji Tanimura

ドンキホーテ・エンフォレックスは 27 年の実績をもつ私立スペイン語教育機関大手として、スペイン国内 10 都市・中南米諸国 11 ヵ国にて年間 35,000 人以上の留学生の皆様に多種多様なスペイン語コースをご提供しております。皆様にお会いできることを楽しみにしております。

¡Vamos a hablar español!

スペイン語で話そう

Lección 13

天気の表現
Hace ...
llover, nevar



天気の表現：晴れ、曇り、雨、風、雪

¡Hola! みなさん、こんにちは。今回は日常会話でもよく使う天気の表現を学びましょう。晴れのとき、暑いときなどは、動詞「hacer」、雨や雪が降っているときは、それぞれ「llover」「nevar」を使います。活用も一緒に覚えましょう！

天気の表現① hacer + 名詞

Hace

「する」という意味の動詞「hacer」。天気が「…である」というときにも使います。主語は書かず、三人称単数形の「hace」から始めます。

sol	晴れている
viento	風がある
(mucho) calor	(とても) 暑い
(mucho) frío	(とても) 寒い
buen tiempo	いい天気だ
mal tiempo	悪い天気だ

例) ¿Qué tiempo hace hoy? 今日の天気はどう？
Hoy hace frío, mañana va a hacer calor.
今日は寒いね。明日は暑くなるみたい。

天気の表現② llover, nevar

Llueve (mucho)	(たくさん) 雨が降っている
Nieva (mucho)	(たくさん) 雪が降っている

それぞれ「llover(雨が降る)」「nevar(雪が降る)」の三人称単数形です。活用に注意しましょう。

hacer, llover, nevar の三人称単数形（現在形と近未来形）

不定詞	現在形	近未来形 (ir 動詞 +a+ 不定詞)
hacer	hace	va a hacer
llover	llueve	va a llover
nevar	nieva	va a nevar

天気の文は常に主語なし、三人称単数形です。また明日や数日後の天気など、少し先の事柄は近未来形で言ってみましょう。「ir a 不定詞」で作ります。ir 動詞の三人称単数形は「va」なので、「明日は雨が降るだろう」は「Mañana va a llover」となります。

+αで覚えよう！【天候・天気に関する言葉】

● 天気 clima	● 雪 nieve	● 霧 niebla
● 空 cielo	● 雷 trueno	● 霜 escarcha
● 雲 nube	● 嵐 tormenta	● 気温 temperatura
● 雨 lluvia	● 虹 arco iris	● 湿度 humedad

スペイン語 ADELANTE www.adelante.jp

スペイン語教室 ADELANTE

・一般・旅行・商業・DELE 検定対策・プライベートなど目的やペースに合わせて選べるコース
・ネイティブ講師だからプチ留学気分で自然なスペイン語がマスターできる！
・振替ができるので忙しくても安心！
・月謝払い OK！

無料体験レッスン 教室見学など 随時受付中！

スペイン語教室 ADELANTE
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2 F
TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122 www.adelante.jp



AVANZAMOS A1

● 日本の学習事情を考慮して作られた西語で西語を学ぶ入門者向けテキスト
● 個人授業 / グループ授業 使用可
● 充実の 104P (オールカラー)・CD 付
● ¥1,944 (税込

アデランテショップで好評販売中！
www.adelanteshop.jp

バルセロナで質の高いスペイン語コースを

International House Barcelona



スペイン語を学びながら、
観光をしたり友達を作ったりしませんか。



質の高い教師陣のもと実生活にすぐに活かせるコミュニケーション中心の楽しい授業を受けてみませんか。



世界中から集まる生徒達



バルセロナの中心地

お問い合わせ
日本人カウンセラー
佐藤朱美: asato@bcn.ihes.com

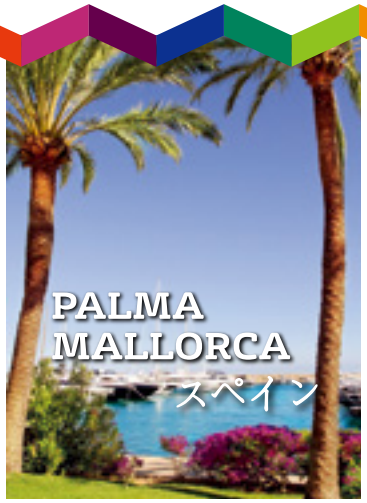
www.ihes.com/bcn

Centro Acreditado

fedele

ACCREDITED Eaquals Excellence in Language Education

右記の学校でも
スペイン語コースを
受けることができます。



PALMA
MALLORCA
スペイン



BOGOTÁ
コロンビア



PLAYA
DEL CARMEN
リヴィエラマヤ
メキシコ

International House VIVA Group
www.viva-group.info

使えるスペイン語を学ぼう

Español práctico vol.7

旅行や留学で使える実践的なスペイン語を学ぶコーナー。
第７回は、食品パッケージの読み方です！
スペインのお菓子を例に見てみましょう。

¿Te gusta?



お菓子のパッケージ

チーズ、ハム、調味料、お菓子など、現地の食品を購入するのも旅先の楽しみのひとつ！
パッケージの表示をチェックして、豊富な商品の中から自分に合ったものを選びましょう。



1. 商品名
2. 原材料
3. 特定原材料使用 / 不使用表示
4. 召し上がり方
5. 「保存料・着色料不使用」
6. 保存方法
「直射日光をさけ、湿気の少ない涼しいところに保存してください」
7. 栄養成分表示
8. エネルギー
9. 各栄養成分の含量
10. 正味重量（内容量）
11. 製造者情報
12. 原産国名

vocabulario

食品パッケージに印刷されているマークを学びましょう。
アレルギー食材の使用など、大切な情報がわかります。



★ 栄養成分表示の読み方

Valor energético　エネルギー
Grasas　脂肪
Hidratos de carbono　炭水化物
Fibra alimentaria　食物繊維
Proteínas　タンパク質
Sal　食塩

スペインで買う食品には、「kj」という単位でエネルギーが表記されていることがあります。「kj」はキロジュールという単位で、1j＝約 0.24cal。

★ スペインの資源ゴミ回収事情

街中のあちこちに回収箱があります。
（青：紙ゴミ、緑：ガラス）
空き缶やペットボトルは、
各家庭ごとに黄色い
ゴミ箱に捨てます。



contenedor de papel

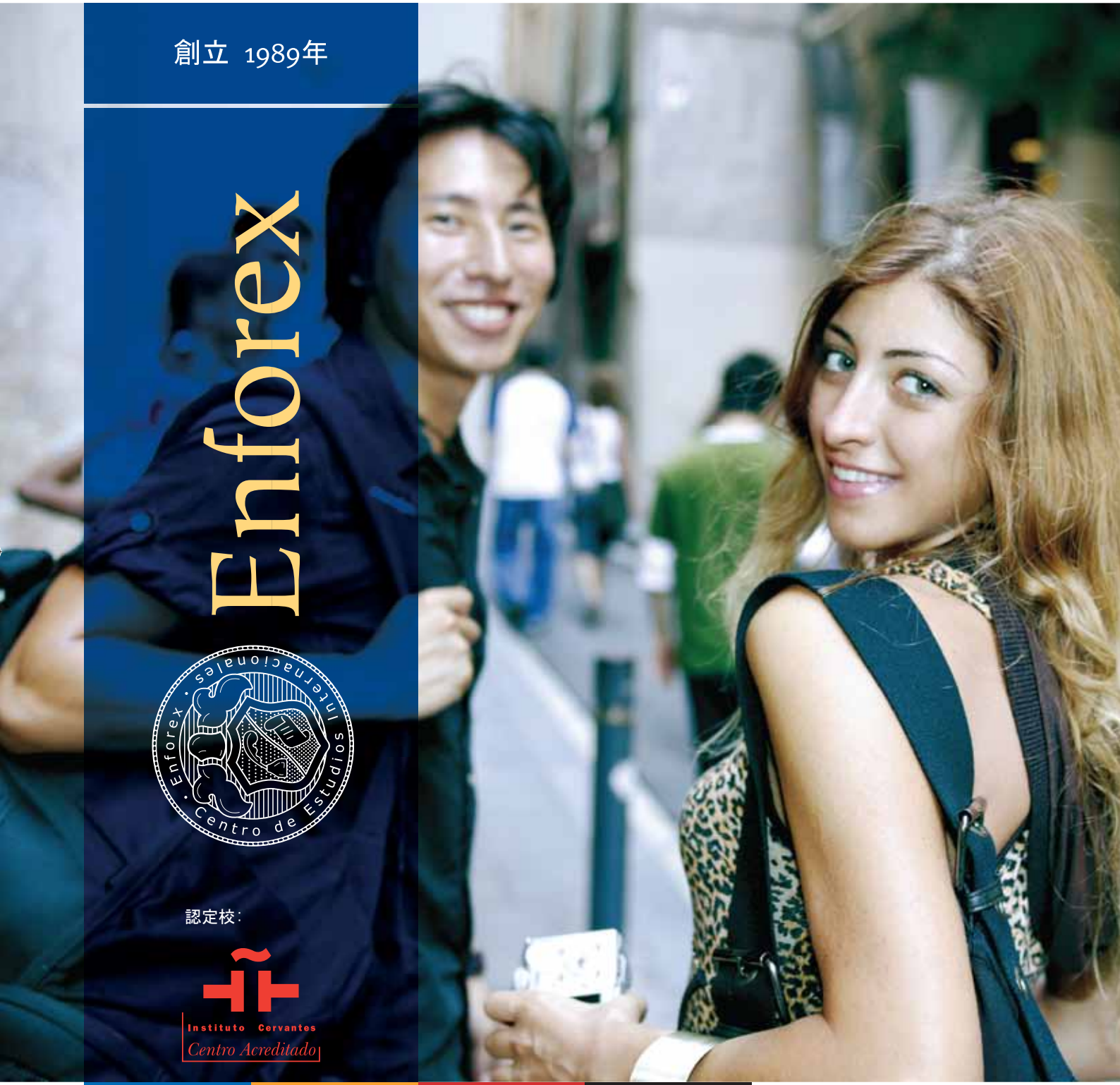

contenedor de vidrio



www.enforex.com

スペインとラテンアメリカにて

最先端を行くスペイン語学校



創立 1989年

Enforex

Enforex · Internacionales · Centro de Estudios

認定校:

Instituto Cervantes
Centro Acreditado

12
スペインの
アカデミック
センター

10
スペイン、
メキシコ、
コスタリカでの
サマーキャンプ

20
ラテン
アメリカの
研修都市

32
スペインでの
大学、
ファウンデーション
プログラム

ヘッドオフィス
Alberto Aguilera, 26 | 28015 Madrid
Phone: +34 91 594 37 76
Fax: +34 91 594 51 59
E-mail: asia@enforex.es

ideal education group

アリカンテ | バルセロナ | カディス | グラナダ | マドリッド | マラガ | マルベージャ | パンプローナ | サラマンカ | セビージャ | テネリフェ | バレンシア（スペイン）
アルゼンチン | ボリビア | コロンビア | コスタリカ | チリ | キューバ | ドミニカ共和国 | エクアドル | ガテマラ | メキシコ | ペルー（ラテンアメリカ）

スペイン語講座 Lección 31

今回のテーマ

目的の接続詞para que等の表現について

Sobre la conjución final *para que* y otras expresiones

今号では目的を表す文を扱います。前号では原因を表す文を学習しましたが，そもそも「原因・理由」と「目的」は非常に近い概念です。初めて英語を習ったときにforが原因と目的の両方の意味を持っていることに驚いた人もいるかもしれません。しかし，スペイン語ではporとparaがあって，両者は区別されています。

Thank you for your help. / It's good for your health.
Gracias por su ayuda. / Es bueno para su salud.

ところで，歴史的にスペイン語を調べれば，興味深い事実に遭遇します。昔のスペイン語にはparaがなく，porに「原因」と「目的」の両方の意味がありました。やがて，以下のように2つの前置詞aとporが融合して，新たな前置詞が生まれるに至りました。

por a → *pora* → para

このようにporとparaの区別ができたため前者は「原因」を後者は「目的」を表すようになりました。しかし，porが完全に「目的」の意味を失ってしまったわけではなく，現在のスペイン語にも少し残っています。

例：todo por la patria「すべては祖国のために」

現代のスペイン語ではporque～は「～だから」と原因を表す文を，para que～は「～のために」と目的を表す文を導きます。

さて，目的節の代表はこの「para que+接続法」です。目的はその意味合いから言ってまだ実現していないことを表しますので，必ず動詞は接続法になります。ただし，主節と目的節の主語が同じ場合は，「para+不定詞」を使います。例文で見てみましょう。

Trabajo duro para que viva bien mi hija.
私は娘がよい生活ができるようハードに働く。
Trabajo duro para vivir bien.
私はよい生活ができるようハードに働く。

trabajarとvivirの主語に注目してください。最初の例では異なり(yo≠mi hija)，後の例では同じです(yo=yo)。このような「que+接続法」を使うか「不定詞」を使うかという基準は，以下に見るその他の目的表現においても同じです。ただし，文脈上明らかな場合，主語が異なっていてもpara以下に不定詞が使われる場合もあります。

Por favor, llame a la enfermera para atender al paciente.
患者を診てもらうために看護師を呼んでください。(usted≠la enfermera)

paraの代わりにaを使って，「a que+接続法」で目的を表すことがあります。ただし，「para que＋接続法」ほど一般的ではなく，制限があるので注意が必要です。多くの場合，移動を表す主動詞とともに使われます。例えば，

He venido hoy a que me deis el regalo de cumpleaños, jajaja.
君たちが僕に誕生日プレゼントをくれるように今日やってきたよ，へへへ。

また，援助，貢献，強要等，他の人への影響を表す動詞(animar, ayudar, contribuir, obligar等)はこの構文を取ります。

Os animo a que participéis en el concurso de español porque es muy eficaz para mejorar vuestro nivel de español.
君たちにスペイン語コンクールに参加することを勧める。スペイン語力のレベルを上げるのに有効だから。

日常的な会話文ではparaやaなしの「que＋接続法」だけで目的節を表すこともあります。

Vamos a abrir las ventanas, que entre el aire fresco.
新鮮な空気が入るように窓を開けよう。

続いてよく使われる目的の接続詞句を見ていきましょう。
まずは，“con el fin de que～”です。

Señor cliente: Tomaremos medidas con el fin de que este error no vuelva a ocurrir.
お客様，二度とこのような間違いが起こらないように対策を取るつもりです。

ほぼ同じ意味で“a fin de que～”もよく使われます。
よく似た表現として“con el objeto de que～”「～する目的で」，“con la intención de que”「～する意図で」，“con vistas a que～”「～を見越して」，“con la esperanza de que～”「～を期待して」等たくさんありますが，それぞれの名詞の意味が生きていることに注意しましょう。
さて，de modo (manera,suerte,forma) que～は，「＋直説法」だと「～なので…である」という推断文でしたが(27号参照)，「＋接続法」だと目的になります。

Hablaré despacio y en voz alta de manera que todos los estudianes me entiendan.
すべての学生が理解できるようにゆっくりと大きな声で話しましょう。

ところで，目的の構文para (que)が目的というより「時間的連続」を表現する用法があります。

Mi tío se marchó a América sin avisárselo a nadie para pronto volver hecho millonario.
僕の叔父は誰にも知らせずにアメリカに渡ったが，すぐに百万長者になって戻ってきた。

この用法はジャーナリズムでよく使わるフォーマルな文体です。
「por si+直説法」は「万が一のために」，「念のために」，「もし～だといけないので」と起こりうることに危惧を表わす表現です。

Ahora está despejado, pero vamos a llevarnos el paraguas por si llueve.
今は晴れているけど，万が一雨が降るといけないので傘を持っていこう。

por si acaso～と疑念の副詞acaso「もしかして」が入ることがよくあります。
最後に慣用句的に使用される表現を1つ覚えましょう。para que lo sepas「ご参考までに」です。

Te informaré de ello para que lo sepas.
ご参考までにこの事を言っておくよ。

目的を表す構文は「para＋不定詞」を使えるようにするのがまず第一ですが，中級者の方はより高度な表現にもチャレンジしてみましょう。¡Hasta la vista!



仲井 邦佳 / Kuniyoshi Nakai
立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語―文法と演習―』(共著、同学社)などがある。

colegiodelibes
Y TÚ... HABLAS ESPAÑOL?

Avda. Italia, 21. 37007. Salamanca. España
Tel: +34 923 120 460 Fax: +34 923 120 489
www.colegiodelibes.com
delibes@colegiodelibes.com



Salamanca ¡Te está esperando!

様々な国籍の学生で溢れ、
いつも活気のあるColegio Delibes。
充実したコース・アクティビティが自慢です。
あなたも一緒に勉強しませんか?

Salamancaへ行こう!

「学生の街」として有名なサラマンカ。
この街では、訛りのないスペイン語が話されているため、スペイン語を学ぶのにぴったりの環境です。小さな街で治安も良く、親しみやすい雰囲気のため、世界中からたくさんの学生が訪れます。是非、サラマンカへお越しください!きっとご自分の家にいるような心地よさを感じていただけると思います。

Cursos
ニーズに合わせて
多様なコースをご用意

Clases
25教室 / 全10レベル
1クラス最大10名

Estudiantes
学生からシニア層まで
40ヵ国の国々から

Actividades
文化やスポーツなど、
様々なアクティビティを提供

Alojamiento
ホームステイ、学生寮、共同アパート
プライベートアパート、ホテル

コース料金、
宿泊施設など
詳細につきましては
お問い合わせください

ビジネス スペイン語

NIVEL 中級(B2)以上

Vol.12

今回と次回は労働・人事分野の表現を勉強します。「企業は人なり」の考え方は外国でも同じで、雇用情勢、採用、人材育成などに関わる人事・労務管理は、いずれの企業にとっても、いわゆるゴーイングコンサーンを全うする上で重要な課題です。海外の人事・労務用語には独特の表現がありますのでこの機会に覚えてください。

伊藤 嘉太郎先生
Yoshitaro Ito
長年の海外経験を活かし、大学でのビジネススペイン語非常勤講師などを歴任。



☑ **これまで同様、専門用語は例文を参考にそのまま覚えることです。**

ejemplo 1

La tasa de desempleo disminuye drásticamente gracias a la dinámica económica, pero sigue situándose en un nivel elevado entre los jóvenes y los desempleados de larga duración.

失業率は経済の活発化により大幅に減少しているが、若者や長期失業者の間では引き続き高水準にある。

ejemplo 2

Se pronostica que para aquellos que procuren superar la discriminación en el acceso al empleo entre hombres y mujeres y conseguir con un puesto de trabajo, se introducirá un curriculum vitae anónimo.

男女間の求職面での差別を克服して職を得ようとする人たちのために、個人名無記入の履歴書が導入される見込だ。

ejemplo 3

En la entrevista de trabajo, las empresas valoran cada vez más las habilidades y las competencias de los candidatos: relaciones interpersonales, comunicación, entusiasmo, trabajo en equipo, honestidad y compromiso ético.

採用面接で企業は次第に応募者の技能と能力を重要視してきている。すなわち、対人関係、コミュニケーション、熱意、チームワーク、誠実さそれに倫理観である。

ejemplo 4

Una empresa puede dar a sus empleados la experiencia que quiere que tengan, pero no puede cambiar los factores que son de su fundamento: su actitud, valores y predisposición, ya que están bien arraigados en ellos mismos.

企業は社員に身に着けて欲しい経験をさせることはできるが、身に備わった素養を変えることはできない。人となり、価値観、素質は社員自身に深く根ざしたものだからだ。

ejemplo 5

Para medir la libertad de los mercados laborales se analizan las normas de contratación y despido, las regulaciones de las horas de trabajo, la existencia de un salario mínimo, las indemnizaciones por despido.

労働市場の自由度測定には、採用と解雇の規定、労働時間の規制、最低賃金の適用、解雇手当が調査される。

スペイン語圏の労働事情や採用面での企業の視点を採り上げましたが、現地事情や労働慣行を知らないと瞬時に日本語に置き換えにくい表現や用語があります。骨が折れますが少しずつ覚えてください。次回も人事マターを取り上げます。

ejemplo 1

1. la tasa de desempleo：失業率は“el índice de paro”とも表現される。
2. drásticamente：ここでは「大幅に」の意味。但し、次の例文“Debido a la última guerra nuestra vida cambió drásticamente.”では「先の大戦でわれわれの人生は激変した」となる。
3. la dinámica económica：活発な経済動向。
4. sigue situándose en：situándose はencontrándose またはhallándose と置き換えられ、「〜の状態にある」という意味。sigue は「引き続き…」と訳す。
5. los desempleados de larga duración：失業者desempleados の同意語は“parados”。

ejemplo 2

1. se pronostica que：〜と予測されている、見込まれている。
2. superar：上回る、乗り越える、克服する。
3. en el acceso al empleo：職を求める上で、求職面で。
4. conseguir con un puesto de trabajo：職に就く、職を得る。“puesto”は地位、職位という意味もある。
5. un curriculum vitae anónimo：名前などの個人情報なしの履歴書。男女、民族、年齢などの情報はなく、スキルや経歴、経験を重視した新しい採用方法に対応している(もちろん採用面接は行われる)。履歴書の同意語は“currículo”,“hoja de vida”。

ejemplo 3

1. la entrevista de trabajo：採用面接。面接官は“entrevistador/a”。
2. las habilidades y competencias：技能と能力。他に実力、手腕、才能、力量の意味がある。
3. los candidatos：応募者、志願者。同意語は“solicitante”,“aspirante”。
4. relaciones interpersonales：対人関係。
5. entusiasmo：熱意、意欲。
6. trabajo en equipo：チームワーク。
7. compromiso ético：倫理観。“ética comercial”は商道徳、“ética empresarial”は企業倫理。

ejemplo 4

1. la experiencia que quiere que tengan：企業が社員に会得を望む経験。
2. los factores que son de su fundamento：社員の人間として基本となっている要素⇒身に備わった素養。
3. actitud：態度、人となり。“manera de ser”とも表現できる。
4. valores：価値、価値観。
5. predisposición：素質。
6. están bien arraigados en：〜に深く根ざしている。

ejemplo 5

1. los mercados laborales：複数形となっているのはさまざまな業界を含めた労働市場という意味。
2. las normas de contratación y despido：normasは基準、規定のこと。
3. las horas de trabajo：労働時間。“horario de trabajo”は勤務時間帯、営業時間。
4. salario mínimo：最低賃金、“sueldo”も同義語。報酬は“retribución”。
5. las indemnizaciones por despido：解雇手当。“indemnización”は補償金、賠償金の意味。

もっと詳しく知りたい方は…
中級ビジネス スペイン語特別講座

【対象者】
現役のビジネスパーソンでビジネススペイン語力を高めたい方、将来スペイン語を使った仕事に就く予定・計画のある方、スペイン語のステップアップとして実践的なスペイン語学習を求める方

【講座内容】
ビジネス関連情報の読み取り方、顧客への自社業務・担当業務の説明、E-mail による社内外とのコミュニケーション等

【講座概要】
計 6 講座（各 90 分）
定員：4 〜 5 名の少数クラス
（最小実施人数 3 名）
講師：伊藤嘉太郎
場所：スペイン語教室 ADELANTE
アクセス：JR 大阪桜橋口から徒歩 5 分

スペイン語 ADELANTE
www.adelante.jp

【お問合せ】スペイン語教室ADELANTE 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122 www.adelante.jp

clic
Centro de Lenguas e Intercambio Cultural

International House
Sevilla y Cádiz

スペインのエッセンスが詰まった セビリアとカディスで語学留学

- 語学教育と講師養成コース等で世界的に定評のある**International House**メンバー校
- **1**週間の短期から長期までご希望のコース期間が選択可能
- **DELE**試験開催校（年**3**回）として安心と信頼の**DELE**対策コース
- 現地日本人スタッフによる安心のサポート



Instituto Cervantes
Centro Acreditado

CLIC International House Sevilla y Cadiz
クリック・インターナショナルハウス・セビリア＆カディス
Email: japan@clic.es（日本語でどうぞ）
www.clic.es/jp（日本語サイト）

IALC

イラスト解説

スペイン語慣用表現

vol.2

原案 / Francisco Torregrosa　翻訳・イラスト / Nagisa Miyata

スペイン語のユニークな慣用表現を学びましょう！
今回は、学校の優等生と、勉強が苦手な子の対比表現です。
表現を覚えたら、実際の会話でも使ってみましょう！

Saber el temario de pe a pa



Tirar de bola de cristal



VS

Saber el temario de pe a pa
出題された問題を全問正解する

de pe a pa（ペからパまで）は「始めから終わりまで」という意味。課題を全て正確に網羅していること。頭の天辺から足の爪先まで。

Miguel es el primero de la clase porque siempre se sabe el temario de pe a pa.

ミゲルはいつも課題に全問正解する。だから彼がクラスで１番成績が良いんだ。

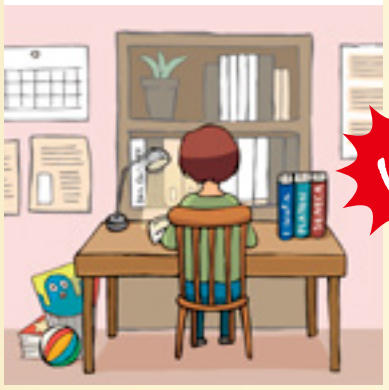
Tirar de bola de cristal
水晶玉占いをする→答えを占いや神託に頼る

自力で正解を導き出さず、非合理的な手段に頼ること。占いやお告げで出た結果をそのまま鵜呑みにすること。

Jaimito no ha abierto un libro en toda su vida, siempre tira de bola de cristal cuando le pregunta el profesor.

ハイミートは生涯１度も本を読んだことがなく、先生の質問にいつも占いで回答する。

Separar el grano de la paja



Mirar el dedo y no la luna



VS

Separar el grano de la paja
籾殻から小麦を取り分ける→価値のあるものを見極める

良いものと悪いものを分ける、取捨選択能力があること。例えば、自分にとってぴったりの教材や学習法を見つけ、課題を克服するなど。

Antonio tuvo éxito en los estudios porque supo separar el grano de la paja.

アントニオは勉強に必要なものを選び取ることができたので、学業で成功を収めた。

Mirar el dedo y no la luna
月を指せば指を認む→本質を見ない、誤った分析をする

本来取り上げなければならない重要事項を見定められず、どうでもいい部分にばかり注目したり、的外れな意見を出してしまうこと。

Ana no llegará muy lejos fijándose en el dedo en lugar de la luna.

指ばかりを見つめて、肝心の月に目がいかないようでは、アナは大成できないだろう。

Hincar los codos



Estar pegado a la caja tonta



VS

Hincar los codos
肘を釘付けにする→長時間机に座って猛勉強する

机に肘をぴったりとくっつけて、がむしゃらに勉強すること。同じ意味で quemarse las cejas（o las pestañas）「眉（または睫毛）を焦がす」という表現もある。

Angeles se acostumbró desde muy pequeña a hincar los codos.

アンヘレスはとても小さい頃から、夜遅くまで猛勉強する習慣が身についている。

Estar pegado a la caja tonta
バカ箱（＝テレビ）に張り付いている

caja tonta はテレビを意味する俗語。文字通り、勉強など他にやることがあっても、テレビに夢中になっていること。

Pepito, lo primero que hace al llegar a casa del colegio es pegarse a la caja tonta.

ペピートが、学校から家に帰って最初にすることは、テレビの前に張り付くことだ。

Aunque caigan chuzos de punta



Hacer novillos



VS

Aunque caigan chuzos de punta
たとえ雨が降っても槍が降っても

caigan chuzos de punta は直訳で「槍の穂先が降ってくる」。それほどの凄まじい豪雨や悪天候でも、外に出て目的地を目指すこと。

Mirella nunca falta a clase ... aunque caigan chuzos de punta.

ミレージャは決して授業を休まない……たとえ雨が降っても槍が降っても。

Hacer novillos
ズル休みをする、学校をサボる

novillo とは若牛闘牛のこと。勉学を放り出して闘牛をしに行く＝授業をサボる。Hacer pira という言い方もある。

Vicente y sus amigos son unos expertos en hacer novillos.

ヴィセンテとその友人たちはサボりの常習犯である。

集中特別講座

スペイン語圏で就職！

curso de introducción al mundo laboral en español

実践力を身に付け、海外を舞台に仕事がしたい。人間力に磨きをかけたい。スペイン語を活かしてグローバルに活躍したい。

開催期間 2018年 **2/19**［月］――**2/24**［土］

場所 スペイン語教室 ADELANTE

参加費：99,360円（税込）

¡Todo en español!
講座はすべてスペイン語で行います。

スケジュール

19日（月）17:30～
Bienvenida
ウェルカムパーティ

20日（火）
Buscar trabajo, Entorno laboral
日本とスペイン・中南米の
働き方の違い、仕事の探し方

21日（水）
Carta de presentación, Curriculum Vitae
自己紹介書、履歴書の書き方

22日（木）
Entrevista
面接、グループワーク

23日（金）
Contrato de trabajo, Contrato de alquiler de piso, Contrato de teléfono
契約書の読み方・書き方
（雇用契約、携帯、賃貸契約書、銀行口座開設時など）

24日（土）
Reuniones de trabajo, Cena de despedida
会議での討論や議論、発言方法、
プレゼン、スピーチ、修了式

20日～24日のスケジュール
9:30～10:20／10:30～11:20
休憩
12:30～13:20／13:30～14:20
休憩
15:30～16:20／16:30～17:20
計30時間

［内容］

この講座では、ビジネスクラスでの指導経験や海外での就業経験が豊富なネイティブ講師が、現地状況、仕事の探し方や履歴書・自己紹介書の書き方、応募、面接、採用まで、各段階で必要なスキル・知識を伝え、実用的なスペイン語とともに、「スペイン語圏で働くこと」とはどういうことかを学びます。

春休み、自分の将来について、海外で働くことについて、具体的に私たちと一緒に考えてみませんか。

［本講座のメリット］

- ▶講座中は個人面談実施
- ▶講座の後にネイティブ講師からのフィードバックあり
- ▶同じ目的を持った仲間に出会える
- ▶現地の最新情報をレクチャー



スペイン語圏で働く前の
ウォーミングアップとして！
まずはスペイン語で
仕事について学び、準備をはじめよう!

スペイン語 ADELANTE
www.adelante.jp

お申込
お問合せ

☎ 06-6346-5554
✉ info@adelante.jp

スペイン語教室 ADELANTE
（JR大阪駅「桜橋口」徒歩5分）
〒530-0035
大阪府大阪市北区梅田2-5-8-2F

Eco エコ España エスパーニャ

スペインの“エコ”をお届けします

vol.15

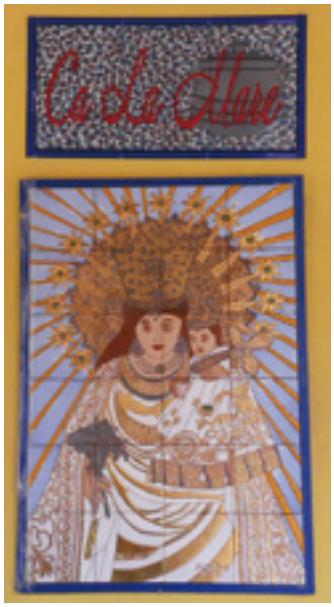
市民団体 カラマレ「Ca La Mare」

写真・文　篠田有史



EcoEspaña エコ エスパーニャ





パエリアで有名なバレンシアの中心から、車で南へ20分ほどいったカタロハという地区に、「カラマレ」というフードバンクと食堂を兼ねたNGOがある。カラマレは、Ca La Mareと綴り、Casa de la madre（母の家）の略だ。

Ca La Mareは、社会的に排除されている移民やホームレスの人たちに、健康的な生活を送ってもらえるよう、食料や食事を提供することを目的として、2015年9月に設立された。創設者は、ジョバンナ・ロドリゲスさん（48）。以前、自分が経営するレストランで、モロッコやアルジェリアからの貧しい移民の少年たちに食事を提供していたことがきっかけだった。

現在はボランティアが、企業やスーパーから寄付された食品や日用品などを整理し、箱につめ、登録カードを持つ人たちに配っている。さらに、登録カードを持つ被支援者たち自身150人と社会奉仕活動を義務付けられた受刑者30人、そこに一般のボランティアも加わり、みんなで毎日420人分の食事を作り無償で提供している。

Ca La Mareの施設は、街の中央にある広場に面した比較的新しい建物の1階にある。薄暗い内部は雑然とした感じで、壁際の棚にはさまざまな食料品が、ところせましと並べられている。働いている人たちもいるが、椅子に座ったり、立ち話をしたりしている人たちもいる。みんな思い思いのこ









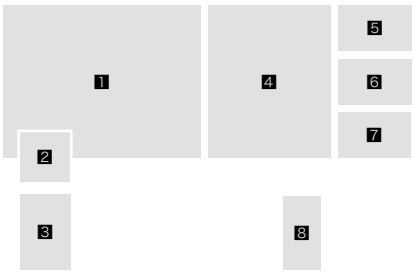
とをしていて、自由な雰囲気だ。奥には調理場があり、数人の男女が働いていた。この日のメニューは、パエリアとPatatas con chorizo（ジャガイモとチョリソ・ソーセージ）。ペトラさん（64）は、自身も苦しいやりくり（年金5万円）をするなか、ボランティアとして調理に参加している。「助けが欲しいと同時に、人の役に立ちたかった」という。ここでは、助ける人も助けられる人も上下関係はなく平等だ。





篠田有史 / Yuji Shinoda

1954年岐阜県生まれ。フォトジャーナリスト。24歳の時の1年間世界一周の旅で、アンダルシアの小さな町Lojaと出会い、以後、ほぼ毎年通う。その他、スペイン語圏を中心に、庶民の生活を撮り続けている。【写真展】冨士フォトサロンにて『スペインの小さな町で』、『遠い微笑・ニカラグア』など。【本】「ドン・キホーテの世界をゆく」（論創社）「コロンブスの夢」（新潮社）、「雇用なしで生きる」（岩波書店）などの写真を担当。



1 Ca La Mareの正面
2 創設者のジョバンナ・ロドリゲスさん
3 入口に貼られたCa La Mareの絵
4 オーブンからPatatas con chorizo（ジャガイモとチョリソ・ソーセージ）を取り出すペトラさん
5 大きな鍋でパエリアをつくる
6 配給品を配る
7 配給品
8 毎日のように寄付が届く

ボルヘスと司馬遼太郎

木村 榮一

司馬遼太郎の対談集を読むと、歴史的事件や出来事にまつわる些末なエピソードがとめどなく語られるので、ここまでよく記憶しているものだとあきれることがある。たとえば、海音寺潮五郎との対談では、ペリー来航の直後に薩摩藩、鍋島藩、伊予・宇和島藩の三藩が外国に負けまいと同じような蒸気船を造ろうとする。意気込んだのはいいが、小藩の宇和島藩には洋学施設などなく、「藩から命じられて実際に造った人間は、蒸気のことも船のことも何も知らない提灯（ちょうちん）張替えのおっさんで、かつては粉の行商をしていた。もっともボディの方は、当時村田蔵六といっていた大村益次郎が宇和島に流れて来ていて、それがオランダの造船の本を見るだけで造りました。なににしても、こんな民族ってないんじゃないでしょうか。蒸気船を見てびっくりした民族は世界中にたくさんあると思いますけれども、三年後にその真似をして国産で造ったのは日本だけです」（『司馬遼太郎対話選集 3. 歴史を動かす力』、文藝春秋）と語っている。エンジンが小さいために外洋ではまともに航海できない船をつくったのが、船のことなど何も知らない「提灯（ちょうちん）張替えのおっさん」というのが実にいい。この一言で、当時の状況と、大国に負けまいと滑稽なまでに背伸びしようとした先人たちの意地と誇りが鮮明に浮かび上がってくる。歴史の大きなうねりと取るに足らないように思われるこうした知識の集積が、司馬遼太郎の描き出す小説世界に奥行きと広がり、厚みを与えており、作品を読むほどにそうした細部に関する彼の記憶力に驚嘆させられる。

地球の裏側にあるアルゼンチンにも、恐るべき記憶力を生かして独自の世界を創造したホルヘ・ルイス・ボルヘスという作家がいる。ある伝記作家によると、ボルヘスは読書家を自負している人が一生かけて読む何倍もの本を読破し、百科事典にも目を通し、しかもそのほとんどを正確に記憶していたとのことである。その驚くべき記憶力を生かしてボルヘスが『伝奇集』（鼓直訳、岩波文庫）、『アレフ』（鼓直訳、岩波文庫）などの幻想的な短篇集や『論議』（牛島信明訳、国書刊行会）、『続審問』（中村健二訳、岩波文庫）といったエッセイ集を書いたことはよく知られている。先日たまたま機会があって、彼の最晩年の講演録を読み返してみたが、その途方もない博識ぶりに眩惑、圧倒された。「書物」、「不死」、「探偵小説」、「時間」といったテーマを取り上げて行われた講演録は『ボルヘス、オラル』（風の薔薇社）と題された本に収められているが、彼はそれぞれのテーマについて博大な知識を駆使して、自在に語っている。

たとえば、「書物」と題された講演では、まずイギリスの劇作家バーナード・ショーの戯曲に出てくる「アレクサンドリアの図書館は人類の記憶である」という一節を引用している。しかし一方で古代の人たちは書物をそれほど崇拝せず、彼らは書物を口頭で語られた言葉の代替物とみなしていたとする。よく引用されるScripta manent verba volant.（書かれた言葉は残り、口から出た言葉は飛び去る）というのは、口頭で言われた言葉は移ろいやすく、消えゆくものだという意味ではない。そうではなく、書かれた言葉は長く残るが、しょせん死物でしかなく、それにひきかえ、口から発せられる言葉には羽と同じ軽やかさが備わっ

「プロフィール」

ホルヘ・ルイス・ボルヘス / Jorge Luis Borges
(1899年8月24日-1986年6月14日)
アルゼンチン出身の作家、小説家、詩人。1914年に渡欧、スイスやスペインに住み、当時の前衛詩運動に触れて詩作を始める。アルゼンチン幻想文学の旗手として知られ、現実と交錯する夢、史実と架空が混在する世界、時間や空間の無限の広がりを巧みに描く。短編小説を得意とし、主要著書に『伝奇集』、『アレフ』、『砂の本』などがある。

司馬遼太郎 / Ryotaro Shiba
(1923年8月7日 - 1996年2月12 日)
大阪市生まれ。小説家、ノンフィクション作家、評論家。大阪外国語学校蒙古語科卒。本名は福田定一。筆名由来は「司馬遷に遼に及ばざる日本の者」。産経新聞社記者として在職中、『梟の城』で直木賞を受賞。以降、数々の傑作を生んだ日本を代表する歴史小説家。代表作は『竜馬がゆく』『燃えよ剣』『国盗り物語』『坂の上の雲』など多数。





「写真 / 出典:Wikipedia」

ていて、神聖なものとみなされていたとボルヘスは述べ、ピタゴラスやソクラテスをはじめ、プラトン、アリストテレス、中世の神学者の言葉や例を引きながら、その点について説明している。ボルヘスによると、生涯に一度だけ地面に文字を書いたが、砂がそれをかき消したと伝えられるイエス、仏陀もやはり口頭で教えを垂れる師であり、イスラム教の聖典『コーラン』は神が書かれたものではなく、それ自体が神の属性だとのことである。

古代文学の精華ともいうべきホメロスの『イーリアス』と『オデュッセイア』も、もともとギリシアの吟遊詩人が人々の前で歌ったものであり、書き記されたものではなかった。そのあと話は、書物が大変高価であったローマ時代に移って、哲学者セネカにまつわる逸話を取り上げている。セネカは、百巻もの書物を所有していると自慢している男がいるという話を聞いて、本をたくさん所有しているのはいいが、本当に読み切れるのだろうか、と暗に蔵書数を自慢する人間を揶揄したと語っている。

ついで、モンテーニュとエマソンの言葉を引いて、彼らは読書を幸せになるための方法のひとつだと考えていたと指摘し、「古い書物を読むということは、それが書かれた日から現在までに経過したすべての時間を読むようなものです。それゆえ、書物に対する信仰心を失ってはなりません。書物には間違いがたくさんあるでしょうし、著者の考えにどうしてもついていけないこともあるでしょう。それでもなお、書物には何か神聖なもの、聖なるものが保持されています。その時は迷信めいた敬意を抱いてはいけません。楽しみを見出したい、叡智に出会いたい、そう思って書物をひもといてください」という言葉で結んでいる。

別の箇所でボルヘスは面白いことを言っている。古代ギリシアの哲学者ヘラクレイトスの《人は二度同じ川に降りていかない》という言葉を取り上げているが、ここにいう川とは時の流れの比喩でもある。したがって、時の流れの中に身を置いている人もまた、川のように時々刻々変化している。つまり、以前に読んだ本を今読み返したとすると、その人はすでに以前とは違う人になっているのだから、読み方、理解の仕方も変わってくるだろうと言っている。ヘラクレイトスの言葉から、こうした思索へと読者を導くボルヘスの想像力は、われわれを魅了し、観念論的な異次元の世界へと導き入れる。

ボルヘスはこのように該博きわまりない知識を生かしながら、観念論的な思索を極度に圧縮し、それを極小の宇宙に閉じ込めて読者の前に差し出す。このボルヘスと、歴史に関する博大な知識と鋭い洞察力、それに人間味あふれるエピソードを通して激動の時代を生き抜いた人間群像を描き出した司馬遼太郎という、驚異的な記憶力に恵まれた二人の天才と同時代人であったことをわれわれは喜びつつ感謝しなければならない。この二人の著作を読んでいると、暗記と記憶の違いについて考えさせられる。つまり驚くべき記憶力に恵まれた彼らの場合、おそらく自分が興味を持ち面白いと思ったことは、努力して覚えようとしなくても自然と記憶に残ったのだろう。少年のようなみずみずしい感性と好奇心、それにものを知り、思索する喜びがこの二人の記憶力を支えていたことは間違いないだろう。

木村 榮一 / Eiichi Kimura
1943年、大阪市生まれ。神戸市外国語大学イスパニア学科卒業。同大学で教鞭をとり、現在名誉教授。専門はラテンアメリカおよびスペインの現代文学。著書に『翻訳に遊ぶ』、『ラテンアメリカ十大小説』など。訳書にコルタサル『悪魔の涎、追い求める男』、バルガス=リョサ『緑の家』、リャマサーレス『黄色い雨』、ピラ=マタス『バートルビーと仲間たち』など。



『ボルヘス・エッセイ集』
平凡社ライブラリー (2013)
J.L. ボルヘス 著
木村 榮一 翻訳



『伝奇集』
岩波文庫 (1993)
J.L. ボルヘス 著
鼓 直 翻訳



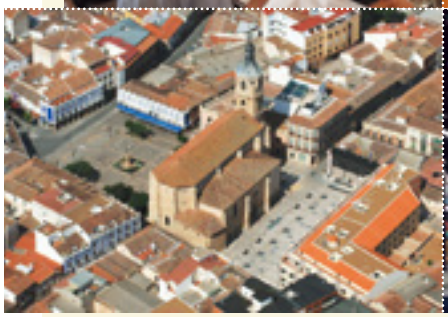
『アレフ』
岩波文庫 (2017)
J.L. ボルヘス 著
鼓 直 翻訳



『続審問』
岩波文庫 (2009)
J.L. ボルヘス 著
中村 健二 翻訳






日本のインポーターとジャーナリストの一団、バルデペーニャスを視察　Misión inversa de Japón a la D.O. Valdepeñas

去る2017年8月30日～9月3日、日本から訪れたインポーターとジャーナリストの一団が、カスティーリャ・ラ・マンチャ州シウダー・レアル県のバルデペーニャスを視察に訪れました。この視察は、原産地呼称バルデペーニャス・インタープロフェショナル協会（Denominación de Origen Valdepeñas）が推進し、バルデペーニャス産ワインの魅力をもっと知ってもらい、日本への普及の足掛かりになるよう、スペインワインに精通する方々を招聘し実現しました。

原産地呼称バルデペーニャス・インタープロフェショナル協会は、生産者・醸造家・マーケターを代表し、ワインの品質を保証・管理しながら、この原産地呼称のワインの普及活動を精力的に行っています。

この視察に招聘されたのは、アグリ株式会社の富田暢広氏、株式会社インターベネフィットジャパンの杉浦徹氏と杉浦果奈氏、Casa Pino有限会社の林嘉書氏、サンセーコー21（株式会社正光社）の内海沙良氏、Spain-Japan Market, S.L.の立川カオリ氏、株式会社ヴィノテークの蛯沢登茂子氏、南アルプスワインアンドビバレッジ株式会社の杉本欣和氏、株式会社山本商店の加藤安都子氏（50音順）です。

視察では、まず協会本部で、原産地呼称バルデペーニャスについてのプレゼンテーションが行われ、その後、日程中に合計7社のワイナリーを訪問し、説明を聞きながらの見学や試飲を行いました。ちょうど収穫の時期と重なり、実際にブドウがワイナリーに搬入されるところや、発酵過程等も見学できました。また訪問の際、ワイナリーで昼食や夕食を共にし、お互いにゆっくり話ができる時間もありました。そして最終日には訪問できなかった2社と夕食と共にし、彼らのワインの試飲を行いました。その他、ワイン博物館ではバルデペーニャスワインの歴史や、醸造に使われていた古い道具・機械等の見学をしました。



この視察だけでは伝えきれないものもありますが、これを機に、日本でバルデペーニャスのワインが更に評価され、消費者によりバリエーション豊かな商品をお届けできるきっかけになることを期待しています。



バルデペーニャス・ワイン博物館

El Museo del Vino de Valdepeñas

バルデペーニャス・ワイン博物館は、1901年に建築された旧レオカディオ・モラレスのワイナリーの修復部と、新たに増築された近代的な建物で構成されています。元となったワイナリーは、20世紀前半、バルデペーニャス産ワインの商品化や貿易が盛んに行われていた時代に、多くのワインを醸造していた主要拠点でした。

近代的な建物の中では、（1）この地におけるワインの歴史（2）地質・気候・ブドウの品種・栽培法・ワイン醸造法（3）商品化関連（4）ワイン関連の文化と文化人（5）ラボラトリーの5つのテーマごとに空間を分け、パネル等でわかりやすく説明しており、インタラクティブの形式を取っています。その他、原産地呼称バルデペーニャスの全てのワインの展示・販売をしているショールームもあります。

旧ワイナリーは中庭の周りに建物が並ぶ構造で、その広い中庭には、当時を彷彿させるこの地特有の井戸や農耕器具、計量台、貨車で運ばれてきたブドウの荷降ろしをするホーム跡等が保存されています。また建築様式も当時のワイナリーの典型的な様式で、その中には、ブドウ圧搾機をはじめとするその時代の数々の機械類が展示されています。そしてワインの発酵・貯蔵に使用していたカメを展示している部屋にも、ワイン醸造に使用されていた機械および道具が、1959年のバルデペーニャスの収穫時期に写真家ハリー・ゴードンによって撮影された写真と共に展示されています。



その他には、樽と手桶を製造・修理していた部屋の展示もあります。



日西商業会議所

Cámara de Comercio Hispano Japonesa

マドリードにオフィスを構える日西商業会議所(Cámara de Comercio Hispano Japonesa)は、日本とスペイン間の商業関係促進のために1954年に設立された民間団体です。会員をはじめとして顧客へのビジネスサポート、イベント開催、各種講座の開講、スペイン情報の発信、各種出版など、日本・スペイン間の理解、関係改善に向けた様々な活動をおこなっています。ここでは、日西商業会議所発行『スペイン広報』と記事の一部をご紹介いたします。



スペイン情報誌
季刊『スペイン広報』

1985年創刊の『スペイン広報』は、スペインの文化、経済をオールカラー、豊富な写真でお伝えする日本語の季刊誌。日本ではあまり知られていない地域の魅力や祭り、アートの他、奥深いスペイングルメ情報も満載。

www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5



お問い合わせ先
日西商業会議所

Cámara de Comercio Hispano Japonesa
www.camarajaponesa.es
camara@camarajaponesa.es ☎ (+34) 91 851 12 11
✉ Apartado 10124 – 28080 MADRID - SPAIN

駐日代表
ペドロ J. ガジェゴ
携帯 090-4226-5774
E-mail: eliken@purple.plala.or.jp

セルバンテス文化センター東京
新館長から、スペイン語を学ぶ皆さんへ



ビクトル・ウガルテ / Víctor Ugarte
セルバンテス文化センター東京館長
1963年バルセロナ生まれ。2006年セルバンテス文化センター東京の初代館長に任命される。2012年9月より同機関シドニーセンターの館長を務めた後、2017年9月より再び東京センターの館長に就任。

「Decíamos ayer…（昨日話しましたように……）」5年前、東京からシドニーへ旅立ち、再び日本の地へ戻って参りました。こうしてスペイン情報誌「acueducto」、同誌編集長の坂東先生をはじめ、旧知の友と再会できることは大変な喜びであります。

セルバンテス文化センター東京に赴任した最初の5年間は、日本でスペイン語やスペイン語圏の文化との架け橋を築くという、かねてから望んでいたプロジェクトの始まりでした。今、スペイン語の話者人口は6億人近くに上り、母語としては英語を抜き、中国語に次いで2番目に多く話されている言語です。

日本人のスペイン語に対する興味は昔からあったもので、東京外国語大学に日本で初めてスペイン語専攻課程が誕生してからもうすぐ120周年を迎えることがこれを裏付けており、現在では各地に同専攻を持つ大学が存在します。スペイン語学習の動機として、文化は大変重要な入口です。実際に日本人のスペイン語話者の多くは、スペイン芸術に対する興味からミゲル・デ・セルバンテスの言語を学びました。ゴヤやダリ、ガウディ、そして来年日本で展覧会が行われるベラスケスへの関心からです。

また、フラメンコをはじめ、音楽やダンス、近年ではサッカーへの関心がスペイン語学習の誘因となってきました。今日、非常に多くの日本人がスポーツをきっかけにスペイン語を学んでいるため、2020年東京オリンピックがスペイン語話者と日本の人々との距離を縮める貴重な機会になることは間違いありません。スペイン語圏の各国代表を受け入れる市町村では、3つの大陸にまたがり、多文化と多様性が共存するスペイン語圏コミュニティーに対する関心がさらに高まることでしょう。

これまでに述べた文化やスポーツへの関心に加え、旅行に対する日本人の情熱は間違いなく私たちの言語を学ぶ最大の動機となっています。スペインと日本を結ぶイベリア航空の直行便が就航を再開したことは、大変喜ばしいことです。スペイン語学習者にとって、東京で飛行機に搭乗した瞬間から日本語とスペイン語で接客を受け、どうやってガスパチョやリオハワインを頼むかスペイン語で練習しながら旅行をスタートできるのは嬉しいことに違いありません。また、この新しいイベリア航空のフライトは、アラスカからティエラ・デル・フエゴまで、アメリカ大陸にあるスペイン語圏諸国へとつなぐ架け橋でもあります。あえて、アラスカと申し上げたのは、アメリカ合衆国はすでにほぼ6千万人のスペイン語話者を抱え、メキシコに次いで、世界で2番目にスペイン語話者人口を持つ国であるからです。アメリカ合衆国では今日、スペイン語のウェブサイトや広告、コミュニケーションなしで企業活動を行うことは考えられません。この事実は私たちの言語であるスペイン語の経済価値に大きな可能性を与え、ビジネスチャンスをもたらすものです。

このテクノロジーの時代、完璧とはいかないまでも文章の自動翻訳が可能となり、近い将来には機械が私たちの言葉をほぼ同時に翻訳できるようになると言われています。しかし、日本の皆さんにはこれらのツールの誘惑に負けないでいただきたいと思います。コミュニケーションは、単なる言葉の伝達ではなく、人と人との交流ですから、お互いの文化や違いを楽しむためにも、人間関係や友情、相手の文化への興味が、言語を学ぶ原動力になるべきだと考えます。ぜひ皆さんにスペイン語を学んでいただきたいと思います。

水彩画だより

スペインの風景に魅せられて vol.2

スペインの各地を旅するとき、世界遺産、パラドール、白い家と花通りなど、多くの場所で個性的で美しい景色に遭遇し感動します。その思い出を水彩画で楽しく表現しました。

Mojácar
白壁の家と花の通り―花のある街角

スペイン全国を旅するとき、どの町、どの村でも花を飾り、住民はお互いを癒しあい、旅人の心をなごませてくれます。特にアンダルシアのカサ・ブランカ（白壁の家）の村々では、心を込めたもてなしの花々を楽しめます。

絵を描いたモハカルはアルメリア県の東部にあります。小高い丘の町には美しい花で飾った家が多く、旅人を歓迎しています。









〈左〉花のある街 〈右上〉ハイビスカスの咲く街角 〈右下〉花で飾る石壁



牧瀬貢 / Mitsugu Makise
一般社団法人横浜スペイン語センター前理事長。横浜市戸塚区在住。1961年、ブリヂストン横浜工場にエンジニアとして転勤、ここを拠点に数多くの国内・海外経験を積む。ドイツ、カナダ、米国、イギリス、スペインに駐在。短期的な出張含め世界100ヶ国を経験。とりわけ、最後の駐在地スペインの風土、国柄に惚れ込み、北部バスク・ビルバオに駐在、休暇中に17州51県をくまなく廻り、また定年後、思い出の場所での絵画制作を楽しむ。

スペインのお勧め
バール・レストラン
Bares y restaurantes recomendables

Vol.17
Bar Los Diamantes
バル・ロス・ディアマンテス
(Granada / グラナダ)

グラナダには多くの魅力的なバルが存在するが、中でもグラナダを訪れると欠かさず通うバルがある。多くのバルやレストランで賑わうナバス通りの一角にある、ロス・ディアマンテスだ。

ひとくちに「スペインのバル」といっても、地域によって様々な違いがある。大きな違いのひとつ、そして、個人的にも関心があるのは、一杯のビールやワインに無料のタパスが付いてくるか、否か？　という問題だ。

例えば、一般的には(もちろん、例外もあるが)バルセロナのバルではタパスは付いてこない場合が多く、マドリードの場合はポテトチップやオリーブの実、ナッツなど軽めのつまみが付いてくることが多い。そして、特に無料のタパスが大盤振る舞いの街といえば、グラナダを挙げる人も多いだろう。

そんなグラナダの中でも、このディアマンテスは特にタパスが楽しみなバルのひとつだ。何と言っても作り置きの料理ではなく、揚げたて熱々の魚のフライや、蒸したての貝など、作りたてのシーフード系のタパスを、一杯飲むごとに大盤振る舞いしてくれる太っ腹なバルなのだ。

そして、毎回付けてくれるタパスが違うので、ビールにワインにとついつい何杯も頼んでしまう。さらに、一人で訪れても、色々な味を楽しめるのが嬉しい。先日も仕事のためグラナダで一泊することになり、例によって一人でロス・ディアマンテスを訪れた。この人気バルのファンは多く、カウンターとほんのいくつかのテーブル席はあっという間に満杯になってしまう。カウンターの片隅で押し合うようにして熱々のフライを摘みつつ、活気のある雰囲気を感じながら、「ああ、グラナダにやって来た」と実感するのだ。






1 2 厨房で揚げたての海老のフライが次々にカウンターへ運ばれる　3 アサリも無料タパスとしてサービスされる　4 店内はタパスを楽しむ客で活気がある



中村 美和 / Miwa Nakamura
情報工学修士、日本での電機メーカー勤務を経て、2007年に渡西。マドリードにていくつかの企業のウェブシステム開発等に携わった後、CROSSMEDIA WORKS,S.L. を起業。主に観光や食に関わるプロモーションや、雑誌、ガイドブック、テレビなどの取材コーディネイトの他、マドリード情報を発信するtodomadrid.infoなどを運営。
@n_miwa @spain_go

Información
Bar Los Diamantes (バル・ロス・ディアマンテス)
住所：Calle Navas 28, 18009 Granada
電話：+34 958 227 070
HP：http://www.barlosdiamantes.com
※上記情報は、2017 年 11 月時点のもので変更する可能性があります。

西宮市国際交流協会
スペイン語 おしゃべりの会

活動報告 2017.9.24

今回のテーマ　EL SALVADOR, EL PULGARCITO DE AMÉRICA
(中米エルサルバドル、親指ほどの小さな国)

9月17日に予定していた「スペイン語おしゃべりの会」は大型台風18号が関西に上陸した影響で、次週の24日に延期となりました。急な変更で、出席できなかった方も数名いらっしゃいましたが、会場は満席になりました。今回のタイトルはEl SALVADOR, EL PULGARCITO DE AMÉRICA—中米エルサルバドル、親指ほどの小さな国—。西宮市在住のエルサルバドル出身の女性(主婦)Brillit Ochoaさんと、同国から日本に留学している妹さんのMarinaさんの2人で、楽しく話してくださいました。

まず国旗や、国章、それに国歌歌詞の紹介があり、お2人の強い愛国心を感じました。エルサルバドルは九州の半分くらいの面積の小さな国です。同国の概要を、統計などで説明してくれました。その中で印象に残っているのは、国木が日本の桜に似た花を咲かせること、通貨が米ドルであること、日本同様の地震国であることなどです。2016年の統計によると、人口は613万人で、アメリカへの移住者が250万人もいます。貧しいから出稼ぎ者が多いのでしょう。観光面では特に海岸が素晴らしいことや、盛大なお祭りCarnavalがあることなどを説明していただきました。さらに、民族衣装や、quesadilla(チーズと練り粉のケーキ)など、美味しそうな食べ物を写真で紹介。多くの素朴な民芸品も持参して見せてくださいました。

日本との関係で特記すべきは、2015年に眞子内親王が両国の外交80周年記念行事のため訪問されたことでしょう。今回の会をきっかけに、エルサルバドルに親しみを持った方は多くなったと思います。



文・写真提供　谷善三

▶次回開催のお知らせ

日時：2017 年 12 月 17 日（日）14:00 ～ 15:30
ゲスト：David Fernández さん（スペイン語講師）
"Cádiz, la Tacita de Plata"
(Cádiz、小さな銀杯)
場所：〒 662-0911 西宮市池田町 11-1 フレンテ西宮 4 階
お問い合わせ先：(公財) 西宮市国際交流協会
電話：(0798)32-8680　FAX：(0798)32-8678　E-mail：niairuka@chive.ocn.ne.jp
参加費：500 円　定員：30 名（先着順）
※お申し込みはお電話、FAX、E-mail にて / 11 月 20 日（月）より受付開始

フラメンコ大国日本だから
可能になった、最高峰の舞台！
あなたの何かが変わる夜。





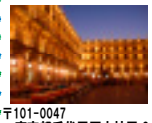
TABLAO FLAMENCO
GARLOCHÍ
タブラオ・フラメンコ“ガルロチ”
http://garlochi.net
〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-15-17 伊勢丹会館 6F

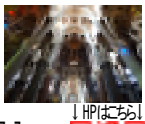
好評
スペイン語、もっと先へ！



渡辺克義 / エフライン・ビジャモール・エレロ 共著
A5 変型判　173 頁　CD 付　定価 1,728 円
「読解力」,「表現力」をもっと身につけたい学習者に！
●会話中心の読みやすい文章●一歩上の文法解説
●大学の入試過去問題(和訳・作文)をたっぷり掲載
●付属の CD で聴き取り練習もできます！
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 363　★価格は消費税 8% 込みです
Tel. (03)3267- 8531　Fax. (03)3267-8606　http://www.daisan-shobo.co.jp
第三書房

株旅コンシェル
短期～長期のスペイン/ヨーロッパへの留学・
アレンジ自由な個人旅行はお任せ下さい！





〒101-0047
東京都千代田区内神田 2-7-7
新内神田ビル 2階
TEL:03-3525-8380
FAX:03-3525-8383
↓HPはこちら↓

スペインタイルの絵付け教室
& 手作りタイル販売
スペインタイルアート工房
Tokyo/Osaka



大阪市西区南堀江 1-20-23-1003
Tel & Fax 06-4390-6545
Email: spaintile@japan.email.ne.jp
http://spaintile.art.coocan.jp/

スペイン菓子
サン・オノフレ
〒851-2106
長崎県西彼杵郡時津町左底郷290-1
TEL: 095-860-8180　FAX: 095-860-8181

おかげさまで5周年
スペイン菓子工房
ドゥルセ・ミーナ
ーポルボロン、トゥロン手作りの店ー
茨城県守谷市ひがし野3-11-2
TEL 0297-45-2740
http://dulcemina.jp/

レオンの日本人宿
一泊素泊まり
1 名様 €24
2 名様 €34
「光」LEON HIKARU
サンティアゴ巡礼やレオン大学に留学される方へ
貸し部屋あります！
ご予約や詳細はe-mail, またはWebサイトで。
lacasa_hikaru_leon@yahoo.co.jp
レオンの日本人宿 光　検索
Airbnb　Facebookページ　Website



確かな技術と音楽する心を育てる
吉川二郎ギター教室
初心者歓迎！
コンサートフラメンコギター
クラシックギター & ギタルパ
花屋敷教室(宝塚市)
天満橋教室(大阪市)
東京教室(月1回)
静岡教室(月1回)
ギターサークルJIRO(富士市)
お問合せ・入会のお申込みは
TEL&FAX.072-793-8684
詳しくはホームページで
吉川二郎　検索

オンライン・スペイン語レッスン《アオラ》
AHORA
いつでも好きな時に学べる
スカイプを使った
オンライン・スペイン語
スクールです。



マンツーマン指導！
時間が選べる！
登録料・入会金ゼロ！ ¥0 igratis!
お支払いは、チケット制！ Ticket 1 Ticket 2
http://ahora-esp.com

acueducto に
広告を掲載しませんか？
1コマ (4.5cm×4.5cm)
¥5,000- / 掲載1回分
✓サイズ・料金は下記サイトより確認下さい
www.acueducto.jp/publicidad
【お問合せ・お申込み先】
有限会社ADELANATE
Tel:06-6346-5554
Email: info@acueducto.jp
お申込みの際は
ご希望のサイズ・
掲載希望号を
明記ください

スペイン語の本 & 雑貨
オンラインショップ アデランテ
ADELANTE
www.adelanteshop.jp
送料全国一律 ¥280
8,000円以上のお買い上げで 送料無料
30%OFFクーポン プレゼント！
-12月末までアデランテショップで配布中-
学習テキスト、文法問題集、レベル別副読本、
D.E.L.E.試験対策本、絵本など
各種取り扱っています。

スペイン情報誌 acueducto
定期配送のご案内
定期配送をご希望の方に、送料をご負担いただき、ご自宅までお届けしております。ご希望の方は、お申込書をお送り致しますので下記連絡先までお問合せ下さい。
送料(1年間:4号分)　1～7冊 ¥1,200　8～14冊 ¥2,400
※冊子のお届けは申込書提出・ご入金後となります。
有限会社ADELANTE　TEL:06-6346-5554　E-mail:info@acueducto.jp

International House Valencia

ESPAÑOLÉ
MUCHO MÁS QUE ESPAÑOL



イメージできますか?
バレンシアで最高の留学

フレンドリーな雰囲気と中規模サイズの学校、
歴史的な町の中心に2つの近代的な校舎がある、
様々なニーズや年齢の方に合わせたスペイン語コース、
教師はネイティブスピーカーと大学の卒業生、
58カ国以上からの学生たち、
スペイン語コースで大学の単位を取得できるコースあり、
年間300日以上の晴天日、
芸術科学都市の現代建築、
どこまでも続くビーチ、
安全で良好な治安。

エスパニョレ・インターナショナルハウス・バレンシアは最高のスペイン語教育を行うフレンドリーな学校です。当校は**International House World Organization**のメンバーで、**Instituto Cervantes**の認可を得ています。

DELE試験合格率90パーセント以上

私たちの**DELEコース**は、セルバンテス文化センターが運営している国際的に知名度の高い検定試験DELEの準備をしたい学生のために特別に用意されています。



Instituto Cervantes
Centro Acreditado

セルバンテス文化センターは、言語教育の研究機関であり、スペイン語圏の言語および文化を世界に推進する政府機関です。

C/ Pizarro, 10 - 46004 Valencia, Spain
C/ de La Nave, 22 - 46003 Valencia, Spain
Tel.: +34 96 353 04 04 | www.espanole.es | info@ihvalencia.com

スペイン留学.jp

スペイン&中南米への留学サポート

留学相談、手続き代行無料サービス



- 学校への出願サポート
- 学生ビザ申請書記入のお手伝い
- 留学費用の海外送金
- ホームステイ、寮、又はシェアフラット、アパート等の申込み
- 空港出迎えサービスなど、各種オプションサービスの依頼代行

安心して出発できるよう、全力でサポートいたします

1週間のプチ留学から長期プログラムまで、色々な目的に合わせて豊富にラインアップ。あなたにぴったりの留学スタイル選び、入学手続きまで無料でお手伝いいたします。言葉に自信がなく、学校とのやり取りが不安な方も大丈夫。入学申請書類の作成や必要な書類の送付、留学費用の海外送金などは全て代行いたします。

お問合せはこちらから
www.spainryugaku.jp
info@spainryugaku.jp

大阪本社 06-6346-5554　東京 03-6869-6435
名古屋 052-766-6406　福岡 092-517-9535





スペイン語
ADELANTE
www.adelante.jp

お問合せ
info@adelante.jp
TEL:06-6346-5554

大阪市北区梅田2-5-8千代田ビル西別館2F FAX:06-6110-5122

日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌
[アクエドゥクト] 発行元
Asociación Cultural Española スペイン文化協会



スペイン語教室 ADELANTE

「私のスペイン語、通じた♪」を実感

無料体験レッスン随時実施中！
お気軽にお問合せ下さい。

- ●ネイティブ講師だからプチ留学気分で自然なスペイン語をマスター
- ●定員6名までの少人数制グループレッスン
- ●ヨーロッパ共通参照枠CEFのレベルに即したカリキュラム
- ●振替ができるので忙しくても安心
- ●楽しい交流パーティーや文化イベントでスペイン語仲間がいっぱい
- ●目的やペースに合わせて選べるコース
  (一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベート・スペイン語の本を読むコースetc.)

スペイン語の本&雑貨

オンラインショップ アデランテ
ADELANTE
www.adelanteshop.jp

学習テキスト、文法問題集、
レベル別副読本、D.E.L.E.試験対策本、
絵本など各種取り扱っています。

送料全国一律280円。
8,000円以上のお買い上げで
送料無料！